

エコアクション 21 環境経営レポート

対象期間：令和3年4月～令和4年3月

発行年月：令和4年5月



川根本町

～ 目 次 ～

基本理念	P2
環境経営方針	P3
1 川根本町の概況	P4
2 環境経営目標	P11
3 エコアクション21に基づく町役場の取り組み	P18
4 令和3年度の活動の内容	P41
5 町が実施する町民向け補助事業	P44
6 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	P46
7 代表者による全体評価と見直しの結果	P48

近年、地球温暖化をはじめとして、経済活動が地球の環境に与える影響の大きさが広く認識されるようになりました。自然界における環境は大気・水・土壌・生物等の間を物質が循環し、生態系が微妙な均衡を保つことによって成り立っています。私たちを取り巻く環境問題は、健全な物質の循環が阻害され、資源やエネルギーを大量に消費する現代社会のあり方そのものに根ざしています。このため、現在の社会経済の構造、私たちの生活様式と価値観を環境の視点からも変革していくことが求められています。

一方、私たちの町は、古くから豊かな自然の恵みを享受し、自然を持続的に利用する知恵と技、自然を慈しむ文化を育んできました。それが自然共生型の生活様式をつくりあげ、ユネスコエコパークの認証へと繋がり、広く認知されるようになったものと思います。今後もこの自然を守り育むとともに、これまで培ってきた知恵を活かし、環境負荷を抑えた方法でその活用を図り、自然共生型の暮らし方、物づくりや連携・交流のあり方を提案・発信していくことが「川根本町」の使命と考えています。

こうした認識の下で、環境への負荷を抑える取り組みを組織的に行う取り組みとして、川根本町役場は、「エコアクション21」に取り組んでまいりました。職員が自分の仕事を通じて、環境との関わりに気づき、環境負荷を減らすため、目標を設定し、計画的に取り組む、結果を評価し、見直し実行する、PCDAサイクルに則った持続的な取り組みを実践してまいります。この取り組みを通じて、環境への取組の推進だけでなく、経費の節減など行財政改革の推進、住民の生活満足度の向上、自治体としての法令順守など、まちづくりにおける行政サービスの品質や信頼性の向上を目指します。

川根本町のキャッチフレーズ、「水と森の番人が創る癒しの里 川根本町」～豊かな自然、お茶と温泉に彩られた、だれもが安心して暮らせるふるさと～の実現には、これからも自然共生型の社会活動が欠かせません。そのために、エコアクション21の取り組みが、その「手段」であり、川根本町がこれまで培ったノウハウを活かすことが求められます。役場の組織だけでなく、町全体で目的を共有しながら、名実ともに豊かなまちづくりに取り組むことが重要と考えます。

環境経営方針

- ①役場の職員は、「水と森の番人」という川根本町の使命を自覚し、環境負荷の低減に配慮した業務を執行します。住民の生活満足度の向上を図るため、広く町民にも啓発・広報・事業活動を持続、推進します。
- ②リサイクルやグリーン調達を積極的に行い、公共工事やイベントなどの事業における環境負荷抑制に努めます。
- ③業務における省資源・省エネルギーを実践し、電気・石油・水・紙の使用量を減ずることに努めます。
- ④環境関連の法令及びその他の要求事項を遵守し、自然共生型社会の実現に取り組みます。
- ⑤川根本町環境基本計画を制定して、環境にやさしい社会を実現するための施策を推進します。
- ⑥環境経営目標、環境経営活動計画を定め、かつそれを定期的に見直すことにより継続的な環境改善に努めます。
- ⑦この環境経営方針は、全職員に周知させ、町民にも公開します。

平成19年7月27日 制定
平成20年3月10日 改定
令和3年4月1日 改定
令和4年4月1日 改定

川根本町長 園田 靖邦

1 川根本町の概況

1 位置・地勢

本町は、静岡県の中央部に位置し、東は静岡市、南は島田市、西は浜松市に隣接し、北は長野県の県境となっています。

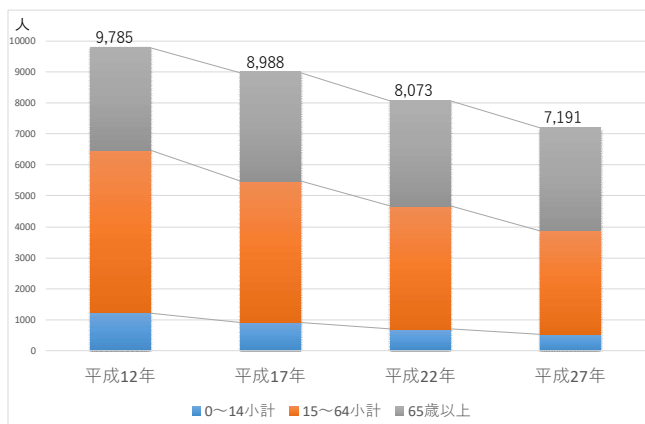
町域は大井川に沿った東西約 23km、南北約 40km の細長い形で、面積は 496.72 km²(県全体の約 6.4%)、このうち約 94% を山林が占めております。



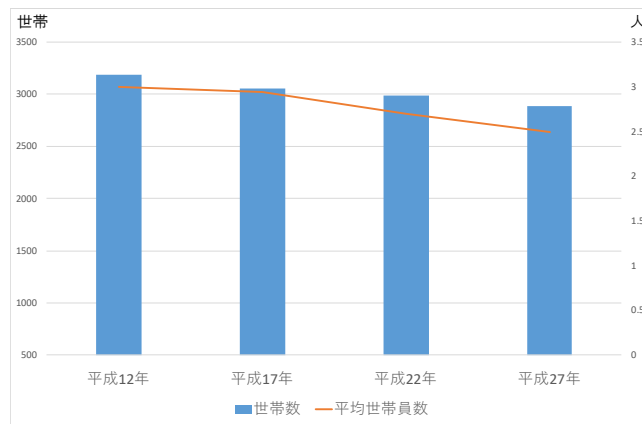
2 人口・世帯

令和 4 年 4 月 1 日現在の人口は 6,172 人、世帯数は 2,764 世帯、平均世帯人員は 2.23 人/世帯で、人口及び平均世帯人員は年々減少傾向にあります。住民基本台帳（外国人を含まない）によると、年齢階層別人口は年少者が 6.0%、生産人口が 43.2%、高齢人口が 50.8%で、年々高齢化が進んでおり、高齢化率 50.8%（高齢人口）は県内で最も高くなっています。

「第 2 期川根本町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」の推計によれば、今後も人口の減少は続き、令和 12 年には人口は 5,241 人まで減少し、さらに高齢化が進むと予想されています。



人口の推移



世帯数の推移

【資料：川根本町統計要覧令和 2 年版】

注 1) 平成 12 年は旧中川根町、旧本川根町の合計数値

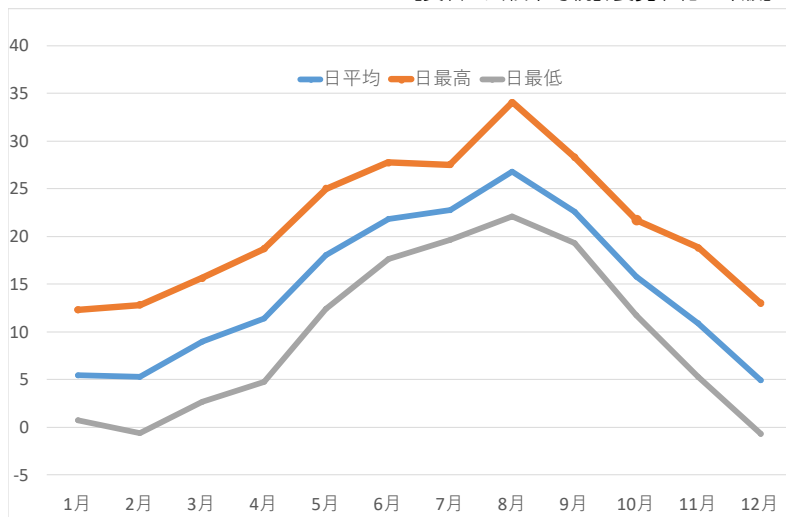
注 2) 平成 22 年、平成 27 年は国勢調査データから年齢不詳を除くデータを使用

3 気象

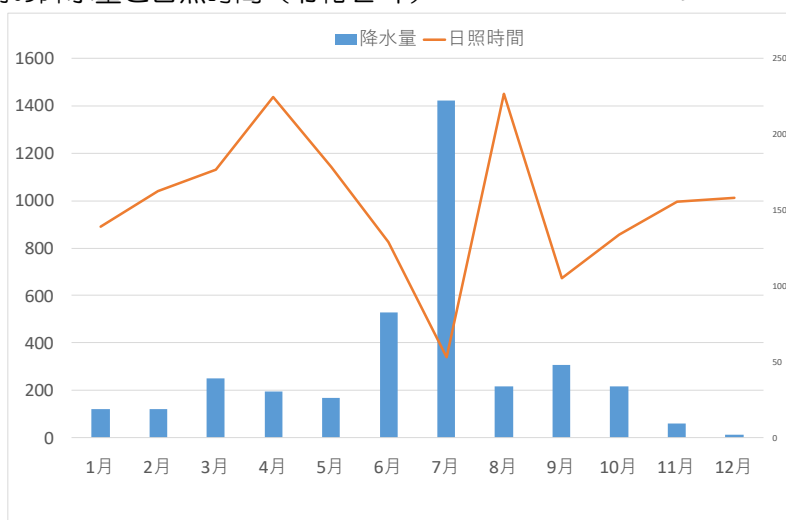
本町は太平洋岸気候に属し、夏は太平洋の高温多湿な空気が吹き込むため雨が多く、冬には北寄りの季節風の影響により、空気は乾燥して少雨となります。最近10年間の平均気温は、11.8℃で、気温年較差や日較差が大きい地域です。年間降水量は3,000mmで梅雨（6月）から台風（10月）の時期が多くなっています。10年間の平均風速は0.6m/sと比較的弱く、冬季に風が強くなります。また、冬季は降雪は少ないものの、氷点下になることが多くなります。

月別の気温（令和2年）

【資料：川根本町統計要覧令和2年版】



月別の降水量と日照時間（令和2年） 【資料：川根本町統計要覧令和2年版】



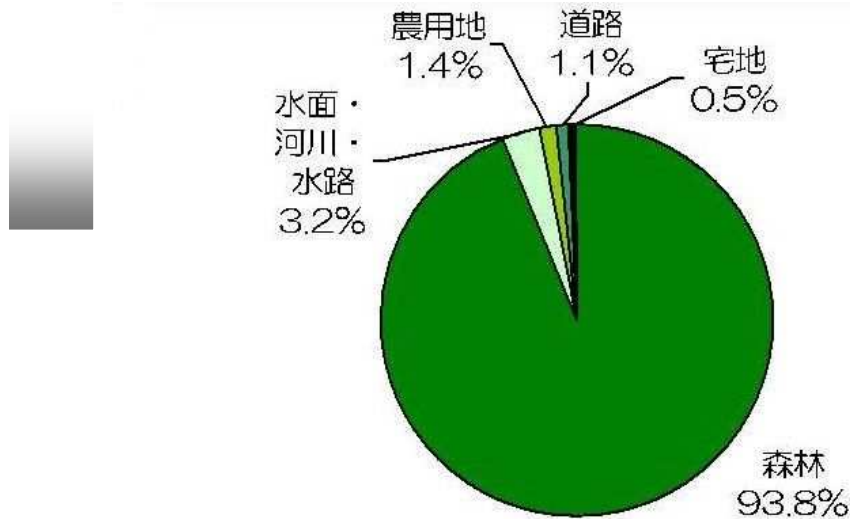
気象概要

	気温(℃)			降水量(mm)		日照時間(h)
	日平均	最高	最低	年間	日最大	年間
平成28年	14.7	38.6	-7.6	3168.5	118.5	1752.8
平成29年	13.6	37.6	-8.4	2590.0	222.5	1859.5
平成30年	14.5	36.9	-8.7	3576.0	243.0	1868.0
令和元年	14.7	32.3	-3.0	2897.0	294.0	1741.1
令和2年	14.6	39.6	-5.9	3628.0	236.0	1842.1

【資料：川根本町統計要覧令和2年版】

4 土地利用

平成 19 年度の土地利用区分別面積をみると、森林（93.8%）が最も多く、農用地や宅地などはいずれも 1%前後とわずかです。

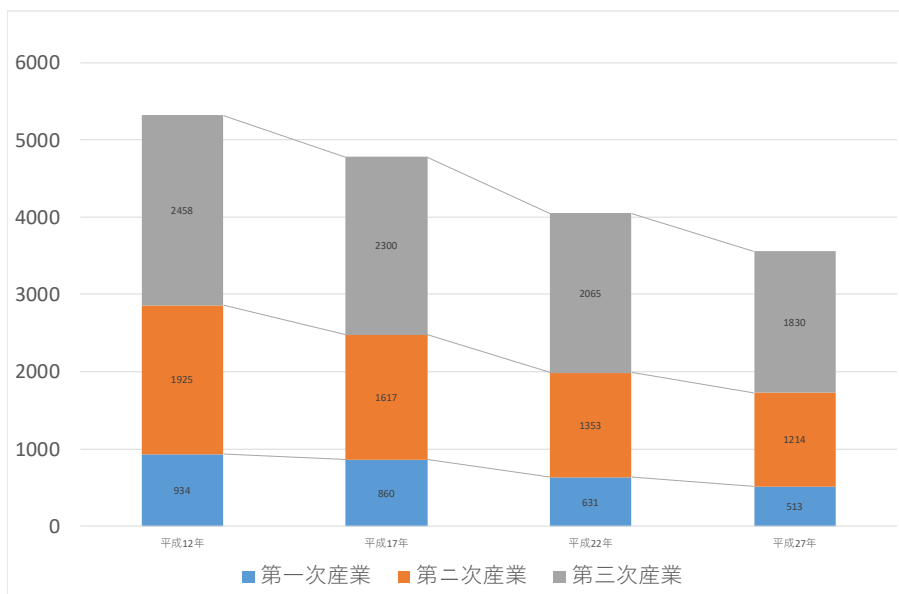


土地利用区分別面積（平成 19 年）
【資料：国土利用計画（川根本町計画）参考資料】

5 産業

平成 27 年度の産業別就業人口は 3,557 人で総人口の 49.5%を占めています。産業別では第 1 次産業が 513 人（14.4%）、第 2 次産業が 1,214 人（34.1%）、第 3 次産業が 1,830 人（51.5%）となっており、第 3 次産業が全体の半分を占めています。

産業別就業人口の推移は平成 12 年に比較し第 1 次産業及び第 2 次産業が約 40%減少し、第 3 次産業約 25%減少しています。



産業別就業人口（15 歳以上）

注 1) 平成 12 年は旧中川根町、旧本川根町の合計数値

注 2) 平成 22 年、平成 27 年は国勢調査データを使用

6 町の代表者・環境管理責任者

代表者

町長 そのだ 蘭田 やすくに 靖邦

責任者

副町長 あきもと 秋元 しんや 伸哉

7 環境担当課

川根本町くらし環境課環境政策室

電話 0547-56-2236 FAX 0547-56-1117

E-mail kurashi-kankyo@town.kawanehon.lg.jp

ホームページ <http://www.town.kawanehon.shizuoka.jp>

8 事業活動の内容

一般行政事務、保育、簡易水道事業などの町民の日常生活に密接に関係する行政サービスの提供。

9 事業の規模

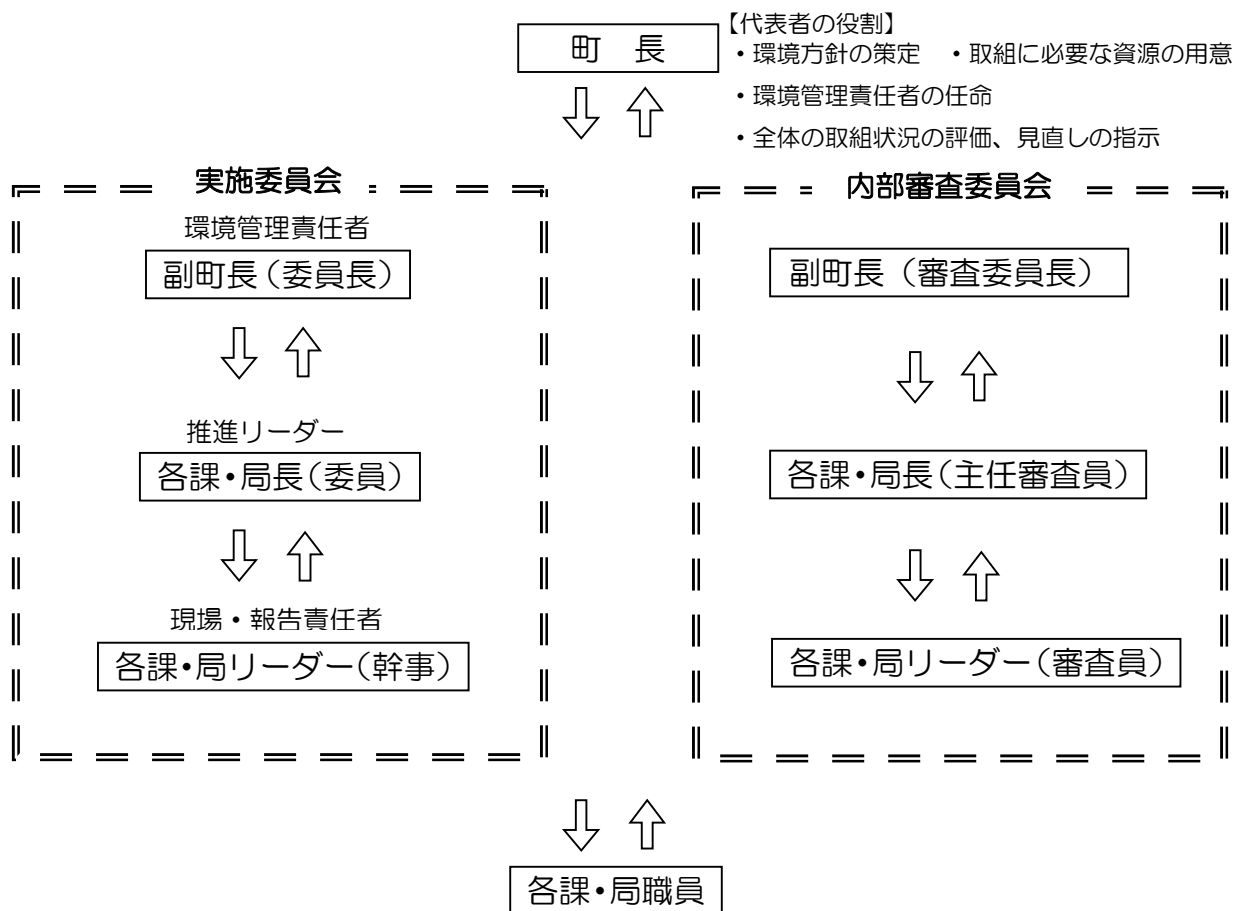
令和3年度一般会計当初予算 55億3,900万円

職員数（令和4年4月1日現在） 246名（嘱託・会計年度任用職員を含む）

10 エコアクション21 認証取得の範囲

区分	課・局名	室・施設名
本庁舎	総務課	財務管理室、行政庶務室、自治防災室、山村開発センター、健康増進施設
	企画課	企画調整室、まちづくり推進室、お試し住宅
	情報政策課	情報政策室
	農林課	農業振興室、林業振興室、フォーシなかわね茶茗館、農林業センター
	建設課	建設事業室、排水機場（千頭、田代、桑野山） 外灯（ふれあい橋、中徳橋、千頭田代線、接岨トンネル）
	高齢者福祉課	長寿介護室、地域包括ケア推進室
	健康福祉課	健康づくり室、子ども支援室、地域福祉室、いやしの里診療所
	税務住民課	税務室、戸籍住民室
	会計課	
	くらし環境課	環境政策室、生活環境室、クリーンピュア川根本町、温泉スタンド、EVスタンド
総合支所	議会事務局	
	教育総務課	教育総務室、教育推進室、学校給食共同調理場
	社会教育課	社会教育室、文化会館、本川根B&G海洋センター、資料館やまびこ
	観光商工課	観光振興室、商工交流室
	支所管理局	支所管理室、窓口業務室
消防署	総務課	静岡市消防局島田消防署川根北出張所
水道施設	くらし環境課	南部簡易水道施設、北部簡易水道施設
斎場	くらし環境課	中川根斎場、本川根斎場
塵芥施設	くらし環境課	中川根ゴミ処理場、環境美化センター
保育園	健康福祉課	三ツ星保育園、桜保育園、子育て支援施設ひだまり、子育て支援施設こもれび
小中学校	教育総務課	中川根中学校、本川根中学校、中央小学校、中川根南部小学校、第一小学校、本川根小学校
福祉施設	高齢者福祉課	福祉センター、憩の家いずみ、中川根デイサービスセンター、生きがいの郷 みどりの丘えまつ、瀬平高齢者デイサービスセンター（まんてん）
キャンプ場	観光商工課	池の谷ファミリーキャンプ場、くのわき親水公園キャンプ場、八木キャンプ場、三ツ星オートキャン プ場、不動の滝自然広場オートキャンプ場、アプトいちしろキャンプ場
温泉施設	観光商工課	接岨峡温泉会館、白沢温泉もりのいずみ、寸又峡温泉美女づくりの湯
宿泊施設	観光商工課	ウッドハウスおろくぼ、もりのコテージ
公衆トイレ	観光商工課	千頭駅前トイレ、四季の里トイレ、奥泉駅前トイレ
その他観光施設	観光商工課	なかわね三ツ星天文台、長島ダムふれあい館

11 環境マネジメントシステム実施体制



実施体制における役割

【実施委員会】

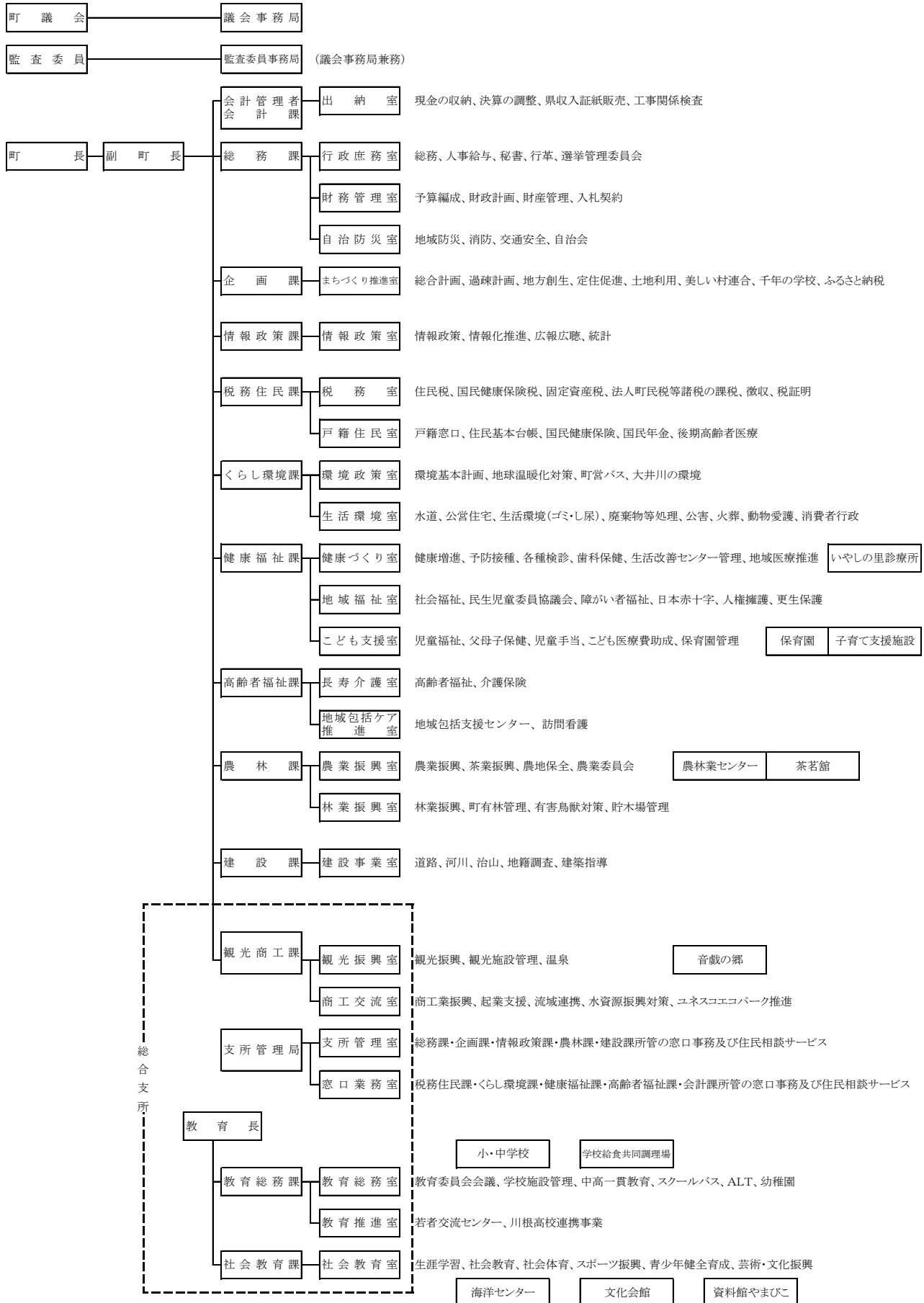
- 委員長（副町長）
 - ・実施委員会の統括
- 委員（各課・局長）
 - ・各課・局におけるエコアクション推進活動の統括
- 幹事（各課・局リーダー）
 - ・各課・局におけるエコアクション推進活動のリーダー的業務
 - ・各課・局における温室効果ガス等排出状況の報告及び検証

【内部審査委員会】

- 委員長（副町長）
 - ・内部環境審査の計画及び実施の指示と統括
 - ・町長への内部環境審査の結果報告とシステム改善のための助言
 - ・エコアクションガイドライン不適合事項への再発防止策について要求
- 主任審査員（各課・局長）
 - ・実施計画に基づく内部審査の実施
 - ・審査報告書及び審査統括報告書の作成
 - ・被審査部門に対するシステム改善のための提案
- 審査員（各課・局リーダー）
 - ・主任審査員の補助

12 役場組織図 (令和3年4月1日現在)

令和3年度 行政組織図 (令和3年4月1日施行)



13 施設の概要

【庁舎ほか】

施設名	所在地	備考
本庁舎	川根本町上長尾627	
総合支所	川根本町千頭1183-1	
山村開発センター	川根本町上長尾627	健康増進施設
文化会館	川根本町東藤川909-1	
本川根B&G海洋センター	川根本町東藤川1220	
学校給食共同調理場	川根本町青部18	

【保育園 他】

園名	所在地	備考
三ツ星保育園	川根本町上長尾570-1	
桜保育園	川根本町東藤川915	
子育て支援施設ひだまり	川根本町元藤川201-1	
子育て支援施設こもれび	川根本町地名637-1	

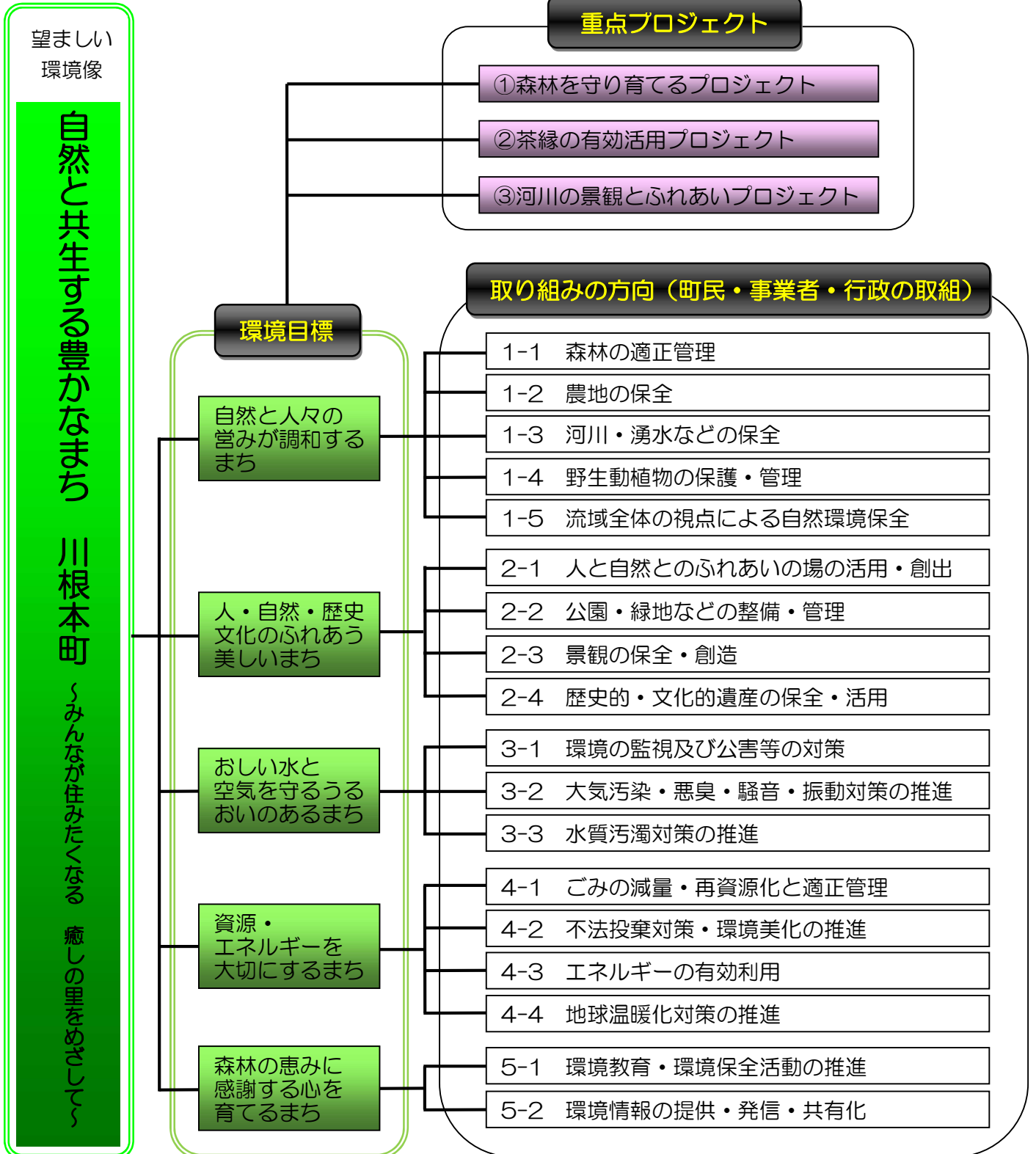
【小中学校】

学校名	所在地	備考
中川根中学校	川根本町上長尾744	
本川根中学校	川根本町田代530	
中央小学校	川根本町上長尾1000	
中川根南部小学校	川根本町下長尾281	
中川根第一小学校	川根本町徳山100	
本川根小学校	川根本町千頭1236-6	

2 環境経営目標

川根本町環境基本計画に定める環境経営目標

川根本町環境基本計画は、町の美しい景観や清らかな大井川、特産物である川根茶の香る茶畑や豊かな森林を守るため、地域をはじめ町全体、さらには地球規模で抱える問題へ対処するため、町民・事業者・行政の三者が連携・協力して環境保全に向けた取り組みを実行するための、総合的かつ長期的な施策の大綱です。



1-1 森林の適正管理

●現状と課題

- 本町には広大な森林がありますが、近年は林家数が減少し、担い手不足や林業労務者の高齢化が進んでいます。また、木材の価格低迷や間伐材の有効利用など、多くの課題があります。
- アンケート結果によると、「森林の保全」などの環境施策や「持続可能な農林水産業の振興」について町民の期待が大きくなっています。
- 国有林の管理が行き届いていない場所があるため、国へ働き掛けていく必要があります。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
FSC森林認証森林面積	1,593ha	H27	2,500ha	R1	農林課
間伐事業実施面積	130ha/年	H26	500ha/年	R1	農林課
森林施業計画認定面積	1,879ha	H27	3,900ha	R1	農林課
林道総延長	215,726m	H26	253,101m	R1	農林課

1-2 農地の保全

●現状と課題

- 農家数や耕地面積は年々減少し、農業従事者の高齢化や担い手不足などに伴って、遊休農地が増加傾向にあります。特に本町の基幹産業である茶園の遊休農地が拡大しており、大きな課題となっています。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
認定農家への農地集積面積	86ha	H26	100ha	R1	農林課
調査による遊休農地認定面積	50ha	H26	40ha	R1	農林課
耕作放棄地再生利用面積	119a	H26	200a	R1	農林課
中山間地域等直接支払事業交付農用地面積	5,473a	H26	5,500a	R1	農林課
利用券設定面積	687a	H26	500a	R1	農林課
法人農業経営創設件数	3社	H26	5社	R1	農林課
青年就農給付金交付者数	0人	H26	5人	R1	農林課

1-3 河川・湧水などの保全

●現状と課題

- 町内を流れる大井川は、峡谷、河岸段丘などの特徴的な地形が数多く見られます。
- 「にほんの里 100 選」「水の郷百選」「静岡県のみずべ 100 選」に選定されるなど、良好な河川環境が残っています。
- 大井川ではかつて、町民生活と密接な関わりがありましたが、ダム建設や交通網の整備、ライフスタイルの変化により、現在ではその関わりが薄らいでいます。
- ダムの設置により、水の濁りや河川流量の減少、河床の上昇、ダム湖への堆積土砂などが大きな問題となっています。関係機関との連携を図りながら、昔のような大井川の環境に近づけ、大井川と人との関わりを深めていけるような取り組みの展開が必要です。

- 上水道の普及により、湧水の存在は薄いものになりつつありますが、貴重な水資源として保全していくことが必要です。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
河川清掃参加人数	1,704人/年	H26	1,700人/年	R1	建設課
河川愛護活動実施回数	27日/年	H26	27日/年	R1	建設課
河川愛護活動実施団体数	27団体	H26	27団体	R1	建設課
大井川の濁水の苦情件数	0件/年	H27	0件/年	R1	くらし環境課
水道普及率	99.7%	H26	99.7%	H29	くらし環境課

1-4 野生動植物の保護・管理

●現状と課題

- 低地帯から高山帯の多様な植生や、大井川源流部の原生自然環境保全地域、貴重な植生や植物群落、巨樹などの保全が必要です。
- 町内では4,134種の動植物が確認され、絶滅の可能性のある動植物として201種が該当します。動植物の生育・生息や絶滅の可能性のある種について情報収集するなど、生物多様性の確保や保全に向けた対策の検討が必要です。
- 特定外来生物に指定されている動植物が確認されており、地域固有の生態系を保全していくためには、外来生物への対策が求められます。
- シカ、カモシカ、サル、イノシシなどによる農作物などへの被害が増加しています。地域生態系のバランスを考慮しながら野生動物と人間との共生を図っていく必要があります。

1-5 流域の視点による自然環境保全

●現状と課題

- 本町は大井川の上・中流域にあたり、町内の広大な森林やダムによって多くの水資源が蓄えられ、下流域の農業用水や工業用水、生活用水などに利用されています。
- 森林には動植物の生息・生育場所や大気浄化、二酸化炭素の吸収などの機能を有しており、これらの環境は流域全体の環境資源とも位置づけられます。

2-1 人と自然とのふれあいの場の活用・創出

●現状と課題

- 自然とのふれあいの場として大井川やキャンプ場、自然観察のできるハイキングコース、紅葉スポットなどがあります。その他、身近な山や河川、森林などはふれあいの活動の場として捉えることができます。
- 美しい渓谷や温泉保養地、山岳、SL、星空など観光資源に恵まれており、本町を訪れる観光客は年間41.2万人です。
- 大井川の濁水や森林・農地の荒廃など、ふれあいの活動の場としての魅力を下げている問題も発生しています。
- アンケート結果によると、環境による地域活性化として、エコツーリズムなどへの期待が大きくなっています。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
インタープリター数 (体験観光のインストラクター数)	60人	H26	70人	R1	観光商工課

2-2 公園・緑地などの整備・管理

●現状と課題

- 町内の公園については、長島ダム四季彩公園、智者の丘公園のほか、児童遊園、幼稚園・保育園の遊具と広場の解放、河川敷の親水公園や広場、各地区の手づくり広場などがあります。
- アンケート結果によると、公園・緑地などの満足度は子育て世代の若年層を中心に低く、町に公園・緑地の整備や管理を望む声も多く寄せられています。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
地域緑化活動団体数	28団体	H27	28団体	R1	くらし環境課

2-3 景観の保全・創造

●現状と課題

- 茶畑、大井川・寸又川、山岳、森林などは本町を代表する景観要素です。しかし、荒廃森林や放棄・遊休農地などが増え、老朽化して景観にそぐわない看板や建物も増加しています。
- アンケート結果によると、町民が大切にしたい環境として大井川や茶畑、SL・アプト式鉄道のは知る景観があげられています。また「景観の保全」などの環境施策への期待も大きくなっています。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
景観団体・グループ数	0団体	H27	1団体	R1	くらし環境課
景観スポット認定地点数	6地点	H27	20地点	R1	くらし環境課

2-4 歴史的・文化的遺産の保全・活用

●現状と課題

- 町内には 38 件の指定・登録文化財があるほか、寺社や鉄道関係施設、吊橋、祭りなど、歴史的・文化的遺産が数多く残っています。
- 地域の歴史を物語る貴重な建物や生活用品、民話、昔話など、多くの地域文化の保存や発掘、伝承活動が行われています。
- 歴史文化の継承者の確保が大きな課題となっており、地域のみならず町全体で支えていく必要があります。

3-1 環境の監視及び公害等の対策

●現状と課題

- 本町では近年、公害苦情はありませんが、公害防止について啓発活動を実施し、苦情に対する処理体制を整えています。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
公害苦情件数	0件/年	H26	0件/年	R1	くらし環境課
生活型苦情解決率	数値なし	H26	100%	R1	くらし環境課

3-2 大気汚染・悪臭・騒音対策の推進

●現状と課題

- 本町では大井川鐵道、路線バス、町営バスが運行されています。
- アンケート結果によると、多くの町民が公共交通機関に満足しておらず、町民の移動手段は自動車が主体となっています。
- 過剰・不要な照明などの光害が少なく、空気がきれいである本町は夜空が暗く、全国的にも星の観測に適した場所です。

3-3 水質汚濁対策の推進

●現状と課題

- 大井川・下泉橋調査点の水質は、BODの値が低くきれいな水ですが、SSの値が高い年があり、水の濁りが見られます。
- 未だ生活排水の約半分が直接、河川に流れ込んでいる状況です。

4-1 ごみの減量・再資源化と適正処理

●現状と課題

- 本町のごみ総排出量は、平成19年度以降減少し、平成26年度は2,103 t/でした。町民1人あたりのごみ総排出量も県平均より少なく、ごみのリサイクル率は県平均を上回っています。
- 町民1人あたりのごみ総排出量は近年、増加傾向にあります。これは生活環境の変化に伴い、梱包ごみの量の増加が原因として考えられます。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
ゴミ排出量	2,103 t/年	H26	1,900 t/年	R1	くらし環境課
住民1人当たりゴミ排出量	728 g/人・日	H26	700 g/人・日	R1	くらし環境課
電気式生ごみ処理機 購入助成数	12台	H26	20台	R1	くらし環境課
年間資源リサイクル率 (集団回収を含む)	39.3%	H26	40.0%	R1	くらし環境課
廃食用油回収量	4,318L	H26	4,534L	R1	くらし環境課
容器包装廃棄物の排出量	89.6 t	H26	100 t	R1	くらし環境課
最終処分量(埋立量+客土)	77.3 t	H26	70 t	R1	くらし環境課

4-2 不法投棄対策・環境美化の推進

●現状と課題

- 本町では不法投棄や道路脇、河川へのごみのポイ捨てが増加する傾向にあり、町民の不法投棄やごみのポイ捨てに対する関心度、施策に対する町民・事業者の期待も大きくなっています。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
不法投棄確認件数	2件/年	H26	0件/年	R1	くらし環境課
監視パトロール実施回数	2回/年	H26	6回/年	R1	くらし環境課
不法投棄苦情件数	0件/年	H26	0件/年	R1	くらし環境課

4-3 エネルギーの有効利用

●現状と課題

- 本町内には5箇所の水力発電所があり、電力エネルギーの安定供給確保に努めてきました。しかし、現在では火力発電が主流となっているほか、環境への負荷の少ない太陽光や太陽熱、風力といった再生可能エネルギーの導入が進められています。
- 本町では、豊富にある森林資源を有効活用するため、木質バイオマス燃料を使用するストーブ・給湯ボイラー・風呂釜、太陽光発電、太陽熱温水器、高効率給湯器などの新エネルギー機器に対する補助を行っています。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
太陽光発電、太陽熱利用施設日などに対する補助件数	約240件	H27	延べ300件	R1	くらし環境課
小規模水力発電の導入率	1基	H27	5基	R1	くらし環境課
太陽光パネルの一般家庭への設置率	118軒	H27	200軒	R1	くらし環境課
公用車の低公害車導入率	7%	H27	50%	R1	総務課
役場、小中学校などへの新エネルギー導入率	25%	H27	100%	R1	教育総務課 総務課
新エネルギーに関する勉強会回数	延べ5回	H27	延べ9回	R1	くらし環境課

4-4 地球温暖化対策の推進

●現状と課題

- 地球温暖化は、南アルプスや大井川、本町の基幹産業である川根茶の栽培などにも影響を及ぼす可能性があります。
- アンケート結果によると、地球温暖化は町民・事業者が最も関心のある環境問題であり、事業活動に伴う環境影響の種類としても二酸化炭素等の排出があげられています。
- 二酸化炭素排出量は、特に家庭・業務分野で増加が著しく、町民や事業者に対する地球温暖化対策が求められます。
- 本町の森林が1年間に吸収する二酸化炭素は、約42,000世帯が1年間に排出する二酸化炭素量と同じくらいであると推計されます。そのため、森林の保全及び適正管理を行うことにより、二酸化炭素の吸収源対策とすることが出来ます。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
地球温暖化対策活動推進員	1人	H27	3人	R1	くらし環境課
町施設温室効果ガス排出量	1,280,265kg-CO ₂	H26	953,773kg-CO ₂	R1	くらし環境課
エコアクション21認証取得事業所数	7事業所	H27	10事業所	R1	くらし環境課

5-1 環境教育・環境保全活動の推進

●現状と課題

- 地球温暖化防止や森林づくりをはじめとした環境教育・環境学習、環境保全活動が行われていますが、アンケート結果によると町民及び事業者の取組の実践率は、他の分野の取り組みと比べて低い状況です。特に若年層の環境に対する関心度や鳥羽久美の実践率が低い傾向にあります。また、町民・事業者の環境への取り組みに前向きな考えを持っているため、町民・事業者の参加。協力をより促すようなきっかけづくりの検討が必要だと考えられます。
- 環境教育を実践するための人材育成が課題となっています。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
環境保全団体の登録件数	3団体	H27	3団体	R1	くらし環境課
環境リーダーの延べ育成人数	2人	H26	10人	R1	くらし環境課
こどもエコクラブ登録団体数	2団体	H27	2団体	R1	くらし環境課

5-2 環境情報の提供・発信・共有化

●現状と課題

- 町のホームページや広報紙などで環境情報の提供を行っています。
- アンケートでも町民は環境情報の提供促進を望んでいることが分かります。
- 町内のブロードバンドの整備が完了したため、今後はその有効活用を図る必要があります。

3 エコアクション21に基づく町役場の取り組み

町の事務及び事業に伴う環境負荷について把握し、行政として自ら環境負荷を低減させるため、川根本町地球温暖化対策実行計画を策定（H29.1）しています。

（1）川根本町地球温暖化対策実行計画に基づく令和3年度の目標〔中長期目標〕

○温室効果ガス総排出量の削減目標

(基準値) H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	(目標年度) R5年度	削減率 (%)	削減量 (kg-CO2)
1,877,256	1,689,530	1,595,667	1,501,804	1,407,942	25	469,314
	10%削減	15%削減	20%削減	25%削減		

○ゴミ排出量の削減目標

(基準値) H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	(目標年度) R5年度	削減率 (%)	削減量 (kg)
10,338	10,049	9,976	9,903	9,831	4.9	507
	2.8%削減	3.5%削減	4.2%削減	4.9%削減		

○紙使用量の削減目標

(基準値) H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	(目標年度) R5年度	削減率 (%)	削減量 (枚)
1,651,350	1,403,648	1,337,593	1,271,539	1,205,485	27	445,865
	15%削減	19%削減	23%削減	27%削減		

○総排水量の削減目標

(基準値) H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	(目標年度) R5年度	削減率 (%)	削減量 (m)
37,810	37,205	37,053	36,902	36,751	2.8	1,059
	1.6%削減	2.0%削減	2.4%削減	2.8%削減		

○グリーン購入率目標

(基準値) H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	(目標年度) R5年度	購入率 (%)	向上率
72	79	86	93	100	100	28
	7%向上	14%向上	21%向上	28%向上		

（2）令和3年度全体目標〔短期目標〕

- ◇ CO2 排出量を平成27年度対比10%削減する。その他の項目も令和3年度の目標達成に向け、段階的な削減又は向上に取り組む。
- ◇ 電力使用量については、7～9月を重点強化期間として節電に取り組む。

(3) 各課（局・施設）の取組目標

○令和3年度 各課の取組目標

課 名	取 組 目 標
総務課	紙使用量を平成27年度基準値に対し、19%削減する
企画課	行政資料（業務参考資料）の作成・更新を行うことで業務の質を向上させ、円滑な職務遂行を図る
情報政策課	web会議システム運用率向上を図り、業務の効率化につなげる。
農林課	円滑な業務を図るため、行政資料（業務参考資料）作成する。目標25項目
農林業センター	町民の手本となる圃場管理
茶茗館	茶茗館環境エコの実践、啓発
建設課	CO2排出量の削減
高齢者福祉課	エコ意識の向上を図り行動と繋げる
健康福祉課	健康活動勧奨
桜保育園	食育活動の充実・環境教育の推進
三ツ星保育園	食育活動の充実と環境教育の推進に取り組む
くらし環境課	緑化の推進を図り、住みよい住環境を町内に推進する
税務住民課	マイナンバーカードの普及と利活用を促進する
会計課	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電力使用の削減 ・ CO2排出量の削減
議会事務局	議員の資源節約意識を啓発、継続する。
支所管理局	エコアクションへの取り組みの啓発
観光商工課	エコツーリズムの推進
奥大井音戯の郷	音戯の郷施設環境エコ活動
教育総務課	川根留学生及び川根高校に入学を希望している保護者と生徒に対し、高校の魅力と併せ本町の豊かな地域資源をPRする

課 名	取 組 目 標
学校給食共同調理場	学校給食の残食量の減量
社会教育課	環境教育の啓発
文化会館	①施設利用者数を維持し、電気使用量を前年度より減らす。 ②町民の環境意識の向上。
B & G海洋センター	エネルギーの有効活用による施設利用者への快適な利用環境の提供

(4) 取組目標に対する実績

短期目標

令和3年度の取組結果は以下のとおりです。

○温室効果ガス総排出量

基準年 (H27) 《実績値》	目標年 (R3) 《目標値》	R3目標 削減率	R3実績 《実績値》	増減率	
1,877,256 kg-CO ₂	1,595,667 kg-CO ₂	△15%	1,757,429 kg-CO ₂	対基準年	△6.4%
				対目標年	△0.6%

判定	×
----	---

○ゴミ排出量

基準年 (H27) 《実績値》	目標年 (R3) 《目標値》	R3目標 削減率	R3実績 《実績値》	増減率	
10,338kg	9,976kg	△3.5%	10,493.2kg	対基準年	1.5%
				対目標年	4.7%

判定	×
----	---

○紙使用量

基準年 (H27) 《実績値》	目標年 (R3) 《目標値》	R3目標 削減率	R3実績 《実績値》	増減率	
1,651,350枚	1,337,593枚	△19%	1,534,600枚	対基準年	△7.1%
				対目標年	△10.2%

判定	×
----	---

○総排水量

基準年 (H27) 《実績値》	目標年 (R3) 《目標値》	R3目標 削減率	R3実績 《実績値》	増減率	
37,810m ³	37,053	△2.0%	54,365m ³	対基準年	43.8%
				対目標年	72.1%

判定	×
----	---

○グリーン購入率

基準年 (H27) 《実績値》	目標年 (R3) 《目標値》	R3目標 削減率	R3実績 《実績値》	増減率	
72%	86%	14%	△7.9%	対基準年	%
				対目標年	%

判定	×
----	---

※判定は目標年 (R3) 目標値に対するR3実績

○温室効果ガス排出量の内訳

令和3年度 エコアクション21取組実績【第4四半期まで】

【排出係数】

- ・電気:0.497
(H27年度中部電力排出係数)
- ・灯油:2.492
- ・LPG:3.002
- ・軽油:2.586
- ・A重油:2.71
- ・ガソリン:2.322

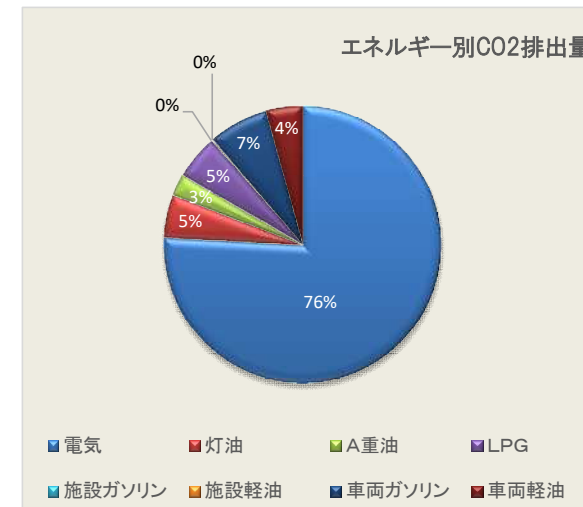
1. CO2排出量

	実績(対基準年)	6.4%削減
目標	平成27年度比 15%削減	実績(対前年)
		0.6%削減

(1)エネルギー別

単位：kg-CO2

	電気	灯油	A重油	LPG	施設ガソリン	施設軽油	車両ガソリン	車両軽油	合計
R3	1,332,884 75.8%	88,178 5.0%	44,390 2.5%	90,671 5.2%	535 0.0%	3,672 0.2%	123,272 7.0%	73,828 4.2%	1,757,429 100.0%
R2	1,328,490 76.0%	94,686 4.9%	42,005 2.4%	97,203 4.6%	620 0.0%	3,414 0.2%	123,972 7.3%	77,482 4.5%	1,767,872 100.0%
H27 (基準年度)	1,340,923 72.3%	115,165 5.6%	58,536 2.8%	97,378 4.5%	709 0.0%	3,612 0.2%	175,343 9.8%	85,591 4.8%	1,877,256 100.0%
増減 (H27-R3)	△8,039 △0.6%	△26,987 △23.4%	△14,146 △24.2%	△6,707 △6.9%	△174 △24.6%	60 1.66%	△52,071 △29.7%	△11,762 △13.7%	△119,827 △6.4%
増減 (R2-R3)	4,394 0.33%	△6,508 △6.9%	2,385 5.68%	△6,533 △6.7%	△85 △13.8%	259 7.58%	△700 △0.6%	△3,653 △4.7%	△10,442 △0.6%



(2)各課・局別

単位：kg-CO2

	総務課	企画課	情報政策課	農林課	建設課	高齢者福祉課	健康福祉課	税務住民課	支所管理局	観光商工課	教育総務課	社会教育課	くらし環境課	合計
R3	148,082 8.4%	1,381 0.1%	58,206 3.3%	64,609 3.7%	17,974 1.0%	130,892 7.4%	144,691 8.2%	898 0.1%	128,901 7.3%	337,565 19.2%	371,181 21.1%	116,207 6.6%	236,842 13.5%	1,757,429 100%
R2	150,012 8.5%	1,314 0.1%	60,436 3.7%	61,674 3.7%	17,110 1.0%	148,455 8.3%	150,508 8.3%	954 0.1%	149,291 8.0%	285,311 16.5%	376,471 20.2%	123,618 7.6%	242,717 14.1%	1,767,872 100%
H27 (基準年度)	169,347 9.2%	4,533 0.3%	29,043 1.3%	74,970 3.9%	24,117 1.3%	177,274 9.4%	176,497 9.2%	1,401 0.1%	174,269 8.9%	314,446 16.9%	325,392 17.0%	143,909 8.4%	262,059 14.3%	1,877,256 100%
増減 (H27-R3)	△21,265 △12.6%	△3,152 △69.5%	29,163 100.41%	△10,361 △13.8%	△6,143 △25.5%	△46,381 △26.2%	△31,806 △18.0%	△503 △35.9%	△45,368 △26.0%	23,119 7.35%	45,789 14.07%	△27,702 △19.2%	△25,217 △9.6%	△119,827 △6.4%
増減 (R2-R3)	△1,931 △1.3%	66 5.05%	△2,230 △3.7%	2,935 4.76%	864 5.05%	△17,562 △11.8%	△5,817 △3.9%	△56 △5.9%	△20,390 △13.7%	52,255 18.31%	△5,290 △1.4%	△7,411 △6.0%	△5,875 △2.4%	△10,442 △0.6%

※島田消防署川根北出張所（総務課）、自然村休養村管理センター（支所管理局）、温泉施設・宿泊施設・キャンプ場（観光商工課）は電気使用量のみ対象

○電力使用量(重点強化期間(7月～9月))

実績(対基準年)	0.9%削減
実績(対前年)	10.0%削減

単位:kwh

	総務課	情報政策課	農林課	建設課	高齢者福祉課	健康福祉課	支所管理局	観光商工課	教育総務課	社会教育課	くらし環境課	合計
R 3	71,317	32,770	24,306	6,409	16,454	36,789	22,575	162,048	159,909	59,439	95,343	687,359
R 2	71,731	33,986	26,554	6,465	17,450	49,093	31,677	156,244	185,613	63,073	121,572	763,458
H 2 7	79,760	6,396	28,637	8,663	17,154	48,337	28,800	147,984	155,214	74,165	98,526	693,636
増減 (H27-R3)	△8,443 △10.6%	26,374 412.35%	△4,331 △15.1%	△2,254 △26.0%	△700 △4.1%	△11,548 △23.9%	△6,225 △21.6%	14,064 9.50%	4,695 3.02%	△14,726 △19.9%	△3,183 △3.2%	△6,277 △0.9%
増減 (R2/R3)	△414 △0.6%	△1,216 △3.6%	△2,248 △8.5%	△56 △0.9%	△996 △5.7%	△12,304 △25.1%	△9,102 △28.7%	5,804 3.71%	△25,704 △13.8%	△3,634 △5.8%	△26,229 △21.6%	△76,099 △10.0%

○電力使用量(第4四半期まで)

実績(対基準年)	0.3%削減
実績(対前年)	0.6%増加

単位:kwh

	総務課	情報政策課	農林課	建設課	高齢者福祉課	健康福祉課	支所管理局	観光商工課	教育総務課	社会教育課	くらし環境課	合計
R 3	281,201	117,115	94,146	29,012	85,165	172,230	100,893	613,102	611,477	210,786	374,873	2,690,000
R 2	286,491	121,601	93,425	26,910	85,411	182,466	131,400	517,411	630,933	210,174	386,797	2,673,019
H 2 7	287,811	58,437	112,078	36,418	86,270	190,657	128,595	549,504	607,353	245,611	395,301	2,698,035
増減 (H27-R3)	△6,610 △2.3%	58,678 100.41%	△17,932 △16.0%	△7,406 △20.3%	△1,105 △1.3%	△18,427 △9.7%	△27,702 △21.5%	63,598 11.57%	4,124 0.68%	△34,825 △14.2%	△20,428 △5.2%	△8,035 △0.3%
増減 (R2/R3)	△5,290 △1.8%	△4,486 △3.7%	721 0.77%	2,102 7.81%	△246 △0.3%	△10,236 △5.6%	△30,507 △23.2%	95,691 18.49%	△19,456 △3.1%	612 0.29%	△11,924 △3.1%	16,981 0.6%

令和3年度は、令和2年度に引き続きコロナ禍での1年度となった。CO2排出量の削減については、27年度対比15%削減を目標として取り組んだが、6.4%削減にとどまった。令和2年度が年度当初から、緊急事態宣言が発令され、社会活動全般にわたり制限のかかった状態が数か月間続き公共施設も休館等の期間があった上で、27年度対比5.8%の削減という実績だったことを考えると、通常に完全に戻ったとは言えない状態ではあったが、社会経済活動は令和2年度に比較するとコロナ禍前に戻りつつある状況下で令和3年度実績が6.4%削減という結果は、年度目標の達成は出来なかったが、取り組みの進歩を評価すべきではないかと考えます。

施設休館等は令和2年度に比較すると少なかったことは、電気使用量の削減実績を見ても基準年度比0.3%削減、前年度比0.6%増加という結果に表れているかと思えます。

電気使用量については、年間で対基準年0.3%削減、前年度比0.6%増加となった。ただし、重点強化期間とする夏季の電気使用量については、対基準年0.9%削減、対前年度比10.0%削減となった。これは節電の徹底、年間で最も電力需要が高まるとされる期間でもあるため、より一層の節電努力をしてくれた結果と推察している。重点強化期間は削減できたのに、年間では対前年度比が増加に転じる。これは冬季が前年度より気温が低く暖房等をより要した結果ではないかと推測する。

○ゴミ排出量の内訳

2. ゴミ排出量	目標						実績(対基準年)						単位:kg
	平成27年度比3.5%削減						1.5%増加						
	実績(対前年)						4.7%増加						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R3	895.4	847.3	991.6	777.0	854.7	747.4	1,132.2	891.7	1,017.5	673.4	673.4	991.6	10,493.2
R2	814.0	710.4	858.4	751.1	736.3	784.4	902.8	810.3	1,036.0	725.2	843.6	1,050.8	10,023.3
H27	1,036.0	758.5	888.0	895.4	780.7	777.0	821.4	865.8	895.4	725.2	847.3	1,047.1	10,337.8
比較増減 (R3/H27)	△141	89	104	△118	74	△30	311	26	122	△52	△174	△55	155
	△13.6%	11.71%	11.67%	△13.2%	9.48%	△3.8%	37.84%	2.99%	13.64%	△7.1%	△20.5%	△5.3%	1.5%
比較増減 (R3/R2)	81	137	133	26	118	△37	229	81	△19	△52	△170	△59	470
	10.00%	19.27%	15.52%	3.45%	16.08%	△4.7%	25.41%	10.05%	△1.8%	△7.1%	△20.2%	△5.6%	4.7%

ゴミ排出量については、27年度対比3.5%の削減目標に対し、1.5%増加に転じた。月別に見ると10月は4割弱増加している。発出されていた緊急事態宣言解除直後の月であり、対前年度比4.7%増加という結果からも、人流抑制後には増加する傾向にあるのかもしれない。人が動けばゴミも出る訳で、紙使用と同じく、ペーパーレス化、包装の簡素化など、まだまだ削減に繋がる取り組み方法は残っていると考えている。

3. 紙使用量	目標						実績(対基準年)						単位:枚
	平成27年度比19%削減						7.1%削減						
	実績(対前年)						10.2%削減						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R3	155,450	115,400	158,600	118,400	62,900	139,900	147,900	103,850	145,250	108,200	138,300	140,450	1,534,600
R2	226,400	99,000	161,650	148,500	126,250	101,900	154,250	124,100	116,150	113,700	135,700	202,200	1,709,800
H27	132,000	141,500	165,000	111,000	126,350	154,500	121,000	104,000	138,500	144,500	132,000	181,000	1,651,350
比較増減 (R3/H27)	23,450	△26,100	△6,400	7,400	△63,450	△14,600	26,900	△150	6,750	△36,300	6,300	△40,550	△116,750
	17.77%	△18.4%	△3.9%	6.67%	△50.2%	△9.4%	22.23%	△0.1%	4.87%	△25.1%	4.77%	△22.4%	△7.1%
比較増減 (R3/R2)	△70,950	16,400	△3,050	△30,100	△63,350	38,000	△6,350	△20,250	29,100	△5,500	2,600	△61,750	△175,200
	△31.3%	16.57%	△1.9%	△20.3%	△50.2%	37.29%	△4.1%	△16.3%	25.05%	△4.8%	1.92%	△30.5%	△10.2%

紙使用量については、27年度対比19%の削減目標に対し、7.1%削減だった。庁舎業務でペーパーレスを感じる場面は少なく、依然として紙媒体が主力で業務は進行している。ペーパーレス化を推進する上で、活用できる端末の導入等も検討すべきと考えるが、経営面と社会的意義を天秤にかけることであり、慎重な議論が必要ではないかと考える。

○水使用量の内訳

4. 水使用量	目標 平成27年度比2.0%削減				実績(対基準年)	43.8%増加	単位:m ³
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	実績(対前年)	72.1%増加	
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計		
R3	6,258	21,396	9,074	17,637	54,365		
R2	5,375	14,085	6,291	11,210	31,586		
H27	7,022	15,242	5,668	9,878	37,810		
比較増減 (R3/H27)	△764 △10.9%	6,154 40.38%	3,406 60.09%	7,759 78.55%	16,555 43.8%		
比較増減 (R3/R2)	6,258 16.43%	21,396 51.91%	9,074 44.24%	17,637 57.33%	22,779 72.1%		

※島田消防署川根北出張所(総務課)、自然休養村管理センター(支所管理局)、温泉施設・宿泊施設・キャンプ場(観光商工課)、おとし住宅(企画課)、川根高校男子寮よすが苑(教育総務課)、伝統文化伝承館(社会教育課)、クリーンピュア川根本町(くらし環境課)、若者交流センター奥流(教育総務課)の使用量は除いた数値

水使用量については、27年度対比0.8%の削減目標に対し、43.8%増加というお粗末な結果となってしまった。第1四半期だけ約10%の削減で、後3四半期は増加の一途を辿っている。業務上水の使用を要するところはあるので一概には言えないが、無駄な水利用は多くはないと思っている。

5. グリーン購入	目標 平成27年度比14%削減		実績	7.9%低下
	物品購入 全体	うち グリーン購入物品	グリーン購入率	
R3	32品	25品	78.1%	
R2	38品	23品	52.6%	
H27	83品	60品	72.0%	

共通の消耗品については、総務課にて一括購入するため、グリーン購入を意識して購入しているが、目標年実績7.9%低下で目標値には届きませんでした。グリーン購入のみならず、サステイナブルという概念も取り入れつつ、資源リサイクルに寄与できる自治体を目指すべきだろうと思う。

環境経営計画と取組結果、評価及び次年度の取り組み内容

1 全庁・全施設

実施項目	評価	R3
◎電気使用量の削減	○	継続
事務室内の照明は、自然光で必要照度が得られる場合には可能な限り消灯する。	△	継続
トイレや会議室、更衣室等の使用頻度が低い場所の照明は、普段は消灯し必要な場合のみ点灯する。	○	継続
定時退庁日の取組を徹底する。	○	継続
照明機器は、可能な限りLED等の省エネルギー機器へ転換する。	○	継続
ノートパソコンは、離席時や着席時でも長時間使用しない場合はふたを閉じる。1時間以上離席する場合は電源	△	継続
デスクトップパソコンは、スリープモードの開始時間を5分に設定する。1時間以上離席する場合は電源を切る。	○	継続
コピー機及びプリンターは、平日は省エネモードにし、夜間・休日は主電源を切る。	△	継続
冷暖房の設定温度は、冷房28℃、暖房20℃とする。扇風機を併用して効率的な空調管理を行う。	○	継続
18時以降は空調は使用しない。(扇風機は使用可)	○	継続
使用していない部屋の空調は停止する。	○	継続
クールビズ、ウォームビズを実施し、冷暖房の使用を抑制する。	○	継続
エレベーターの使用を控え、階段使用を励行する。	○	継続
テレビ、電気ポット、電子レンジ等の電化製品の使用は必要最低限とする。	○	継続
◎施設における燃料使用量の削減	○	継続
ボイラー機器の定期点検、適正管理を行い、燃料の損失を防ぐとともに、不具合を早期発見し修繕を行う。	○	継続
ボイラー機器等は、可能な限り省エネルギー機器へ転換する。	○	継続
◎車両における燃料使用量の削減	○	継続
車両購入の際は、環境負荷低減に配慮した製品を選定する。	○	継続
公共交通機関の利用、公用車の相乗り等により、公用車の使用削減に努める。	○	継続
アイドリングストップや低燃費運転を励行する。	○	継続
定期的に車両の整備・点検を実施し、燃費を向上させる。	○	継続
◎廃棄物の削減、リサイクルの推進	○	継続
使い捨て製品の使用や購入を抑制する。	○	継続
リターナブルボトルの製品を優先的に使用・購入する。	○	継続
丁寧な使用、修理等を行い、備品・製品の長期使用に努める。	○	継続
分別回収ボックスの設置や掲示物の掲示により、来庁者や施設利用者に対する分別を呼びかける。	○	継続
ミスブリ用紙、古封筒、付箋等、紙製品のリサイクルを徹底する。	○	継続
シュレッダーの使用は必要最小限とし、機密を保持した上でリサイクルを行う。	○	継続
両面印刷・両面コピーを徹底する。	○	継続
庁内資料は再利用紙を使用する。	○	継続
グループウェアを活用し、紙使用量を抑制する。	○	継続
資料の簡素化、作成部数の見直しにより、紙使用量を抑制する。	○	継続
コピー、印刷時には、サイズ・色・方向等を確認し、ミスプリントを防ぐ。	○	継続
保存年限を経過した文書は定期的かつ適正に処分し、リサイクルを推進する。	○	継続
廃食油を回収し、ゴミ収集車の燃料(BDF)としてリサイクルする。	○	継続
廃棄物管理票(マニフェスト)に基づき、適正な廃棄物の処分を行う。	○	継続
◎水道使用量の削減と健全な循環形成	○	継続
手洗い、洗い物等、日常の節水に心がける。	○	継続
トイレ内に掲示物を掲示し、来庁者・施設利用者へ節水の協力を呼びかける。	○	継続
バルブを調整し、水量・水圧を適正に保つ。	○	継続
水道使用量の定期点検を実施し、漏水等の不具合を早期発見し修繕を行う。	○	継続
雨水利用設備等を設置し、雨水利用を促進する。	×	未実施
合併処理浄化槽への転換を進め、適正な排水処理を行う。	○	継続
◎事務用品購入における環境配慮	○	継続
エコマーク商品を積極的に購入する。	△	継続
消耗品や備品、建築物の新築・増改築に対し、積極的に木製品を購入・使用する。	○	継続
FSC森林認証紙、ふじのくに森の町内会間伐に寄与する紙を積極的に採用する。	○	継続
◎フロン排出抑制法	○	継続
エアコン、冷凍冷蔵庫の定期点検を実施する。	○	継続

【評価】○:実施(評価)できている △:一部改善の余地あり ×:実施(評価)できていない

2 各課（局・施設）

令和3年度 各課（局・施設）の取組実績及び評価

課（局・施設）名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
総務課	紙使用量を平成27年度基準値に対し、19%削減する	総務課のみではなく、紙使用量の削減を全職員に注意喚起し、職員個々に削減に努める	基準年比で78.0%と22.0%の減少となった。デジタル資料の利用や両面印刷や裏面利用等の適正化により、大幅に削減することができた。情報政策課の進めるデジタルDXとあわせて、今後にも削減に努める	年間を通して、基準年比86.3%と13.7%の減少となり、年間の取組目標率と比較すると5.3%目標未達成となった。第1四半期時点で1.4%の増加、第2四半期時点で13.3%、第3半期時点10.3%の減少となっている。4、6、10月に使用量が増加傾向にあり、情報政策課の進めるデジタルDXとあわせて、会議資料や決裁文書等の紙媒体の必要性を再精査し、次年度以降も削減に努めていく。
企画課	行政資料（業務参考資料）の作成・更新を行うことで業務の質を向上させ、円滑な職務遂行を図る	○6月末時点で新規1件、既存28件の全29項目の行政資料の作成・更新を行う ○追加・更新等は随時作成し、課内で供覧し情報を共有する	作成数：29項目（全29項目中） 作成率：100%	四半期すべての期間で行政資料を更新していくことができた。しかし、課内の情報共有や業務の可視化という面で今回の活動があまり活かされていなかったように感じる。今後は、作成した資料を定期的に更新することに加え、課の業務全体が一目で共有できるような取組としていきたい。
情報政策課	web会議システム運用率向上を図り、業務の効率化につなげる	・課内運用回数を増やし、使用マニュアル改訂及び課内共有の徹底を図る。 ・他課の使用率向上のために、使用マニュアルを改善し、事前に運用に係る説明会を実施する。 ・各課の使用推進を図る。（課内会議等で積極的な利用推進）	・問い合わせ対応（18回） ・会議実績 主催（233回） 参加（841回） ・Zoom研修 ①11/24 15人 ②11/26 10人	・年間を通じてweb会議の利用実績があり、また研修を通じて多くの職員がZoomを活用した会議主催方式について習得したことで、業務の効率化につながったと思われる。 ・コロナウイルス感染症の今後の状況は不透明であるが、web会議システムを活用した会議・研修する方式は今後も継続されると思われるので、引き続き担当課としてマニュアルの見直し、研修会の実施、問合せに対する対応を行っていくことが重要であると思われる。 ・また、内部審査会において、web会議システムを利用することで研修会場まで（例えば役場から県庁まで）の移動に係る時間、燃料費が削減されていることから、それらを二酸化炭素削減効果を数字にて算出できれば、効果が明確に確認できるので検討されたいとの意見があったので、次年度以降、算出方法を検討することとした。

令和3年度 各課(局・施設)の取組実績及び評価

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
農林課	円滑な業務を図るため、行政資料(業務参考資料)作成する。目標25項目	・行政資料、新規作成 ・事業内容等の見直し、更新 ・課内の情報共有	作成状況(8割)	行政資料を作成し課内供覧及び情報共有することで、円滑な業務を図ることができた。 また、行政資料を作成することにより、業務内容を再確認することができた。 (是正点) 目標数値に達成することができなかったため、引き続き次年度以降も「行政資料の作成」を実施することを後任に伝えていく。 また、具体的数値をだし、より円滑な業務を図れるよう努めていきたい。
農林業センター	町民の手本となる圃場管理	防除基準の遵守と適期防除の推進	防除作業 年間5回	・年間を通じてほぼ計画通りの防除作業を行うことができた。 ・作業に当たり、職員間で手順や注意点を確認し、適正な着衣による作業ができた。 ・当施設の業務は主に気候に左右されるが、特に夏の炎天下での作業は、各自が体調管理に留意しながら行いたい。
茶茗館	茶茗館環境エコの実践、啓発	・道の駅利用者及びイベント来場者への「アイドリングストップ」の啓発 ・ウイルス感染予防を考慮したエアコンの効率的な使用。	アイドリングストップの掲示物を駐車場に掲示し、来館者に啓発した。	道の駅であり、来館者により電気・水道使用量が変わってくる。 茶茗館にとっては、来館者増が使用量増につながっている。
建設課	CO2排出量の削減	両面印刷、紙の再利用を行い、紙の節約する。	①用紙の給紙 30,600枚 昨年度給紙 31,950枚 ②再利用枚数 1,800枚 (参考)昨年度廃棄用紙 26,527枚	実施計画において廃棄文書枚数の記録とあるが実施してなく、今年度については再利用用紙の枚数をカウントしたため比較はできないが、だんだんと再利用用紙の利用ができてきたと評価できる。 しかし、まだまだエコへの認識が低いと、次年度についても再利用用紙の活用を呼びかけていかなければならない。 また、情報セキュリティとエコの観点から、長時間の離席の際はデスクトップパソコンは画面を消す、ノートパソコンは画面を閉じることを意識して行いたいと思う。
高齢者福祉課	エコ意識の向上を図り行動と繋げる	関係する施設を含め、電気使用量及び燃料費の削減に努める。 課内のゴミ排出量の削減に努める。 配食サービスの食事内容について食材使用量の見直しや利用者の喫食率を確認し食材廃棄の削減を図る。	冬期に入り、暖房設備を使用するエネルギーの使用量がみられた。喚起を実施しながらの暖房機器の使用が必要となり、施設によっては、使用量の増加が見られたところもあった。気温等見極めながら、節電を引き続き続けてもらう。	・施設使用機器の変更(厨房機器やエアコンの改修)により、エネルギー使用量の減少に繋がった施設もみられた。 必要なエネルギー使用量についても、節電やエコドライブを実施するなど、各施設や課内においても「エコアクション」の取り組みを意識していくよう啓発していきたい。 ・配食サービスの食事内容について、アンケートを行い満足度を評価することができた。評価の低かった方にも満足していただけるよう内容等の見直しは常に行いたい。また、事業者の方の意見伺い、食材使用量の見直しの余地があることも判明したため、量の調整を行い、食材廃棄の削減に繋げていく。

令和3年度 各課(局・施設)の取組実績及び評価

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
健康福祉課	健康活動勸奨	町が行う健康診査と各種検診の受診勧奨を行い、元気に暮らせるまちづくりを目指す	<ul style="list-style-type: none"> 健康診査・がん検診等のガイド作成・各戸配付 hp掲載 緊急事態宣言発令により、9月予定の榛原医師会による健診が延期になったため、かわねフォンと地区回覧で周知した。 緊急事態宣言発令により延期になった健診について、速やかに周知できたため、健診用キットの再送の問合せが無く、使用済みキットの廃棄を防ぐことができた。 延期になった健診の振替日について、地区回覧とかわねフォンで周知した。電話での問い合わせが少なく、時間の節約ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、業務改善を目的とした計画を立て、進化した。 健診日程等は、町広報誌やhpへ掲載するが、引き続き、『健康診査・がん検診等のガイド』を紙媒体で作成し、各戸配付し、健診等の周知活動を行うことが今後も必要。 緊急事態宣言発令により延期になった健診について、延期や振替日をお知らせするかわねフォンと地区回覧で速めに周知したため、電話等での問い合わせが少なく、時間の節約ができたことは今後にもつなげたい。
桜保育園	<ul style="list-style-type: none"> 食育活動の充実 環境教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 園児と栽培やクッキング、土壌作りに取り組む 園から排出するごみの減量 	<ul style="list-style-type: none"> 生ごみを乾燥させ肥料として利用。 野菜などの栽培計画クッキングの年間計画を立てた 資源紙を分別、計量しごみ袋の使用量を記録。 野菜の栽培・収穫・クッキング 梅ジュース、梅干し作り グリーンカーテン作り(朝顔、風船カズラ、ルコウソウ) 落ち葉を集め、腐葉土作り 花の種まき、球根植え 	<p>雑草や剪定をした物が多くゴミ袋の使用が昨年度より増えた。来年度は雑草は広げ、しっかり乾燥させてからゴミ袋に入れて捨てるようにしたり、生活面で出るゴミを減らしていけるように工夫したり、袋の数を減らせるように意識していきたい。</p> <p>資源紙の分別や腐葉土作りを行っていたが、資源紙の仕分けではゴミと混じってしまう事があったり、子どもと一緒にする機会が少なかった為、来年度は子どもと一緒に確認しながら分別をしたり、給食の生ごみを乾燥させた物や落ち葉を集めて腐葉土を作って畑作りをしていながら、栽培にも興味を持てるように活動をしていきたい。</p> <p>水の使い方(手を洗う時や、水遊びの際)を子どもにも知らせたり職員も意識してきた事で、水道量が減っている。引き続き、節水を心掛けるように子ども、職員に呼びかけていきたい。</p>
三ツ星保育園	食育活動の充実と環境教育の推進に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> 園児と共に栽培、クッキング、土壌作りを行い、食育を推進する。 環境に優しい生活を送るために、ゴミ分別の必要性を伝えていく 	<p>ゴミ袋 165個(約610.5kg) リサイクル用雑紙量 262.3kg 乾燥生ゴミ 77.1kg</p>	<p>年間を通して、ゴミ袋数を減少することが出来た。前半は乳児数が多いことで、紙おむつのゴミが出る事も多かったが、布パンツへの移行もあり、紙おむつのゴミ数が減った事も一因だと思われる。資源紙分別も幼児には話をし、子ども達に分かりやすいように資源紙を入れる場所を明確にしたり、その都度伝えたりしたことで、意識するようになってきた。意識が続くように、声を掛けていきたい。落ち葉のたい肥を利用し、畑、土作りも子ども達と一緒に行えたと思う。コロナ感染症対策で、全体的にクッキングを行うことはしなかったものの、収穫をした野菜等はクラスで工夫しクッキングを行い、いただくことが出来た。来年度も子ども達と一緒に活動しながら、続けていきたい。</p>

令和3年度 各課(局・施設)の取組実績及び評価

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
くらし環境課	緑化の推進を図り、住みよい住環境を町内に推進する	・役場庁舎(本庁舎・総合支所)における緑化の展示 ・緑化を活用した省エネルギー生活の普及啓もう	・役場庁舎(本庁舎・総合支所)における緑化の展示⇒春夏秋冬実施、その都度SNSに発信 ・緑化を活用した省エネルギー生活の普及啓もう⇒夏季緑のカーテン事業を共催	2庁舎で展開した花の展示については、四季ごと計画通り進められたが、PR不足か興味を示してくれる人が少なく、今後はPRの仕方を検討した方がいいと思っている。夏に行った緑のカーテンについては主体が職員互助会であったが積極的に関与し、近年では最も良い出来であったと自負している。植物を育てることを通じ、自然への興味を引き出すこと、景観改善、情操効果等計り知れないと思っており、今後も緑化の観点から積極的に係っていききたいと思う。コロナ禍であり、講習会等の開催ができなかったが、次年度以降は本格的に町内に普及啓もうを図りたい。
税務住民課	マイナンバーカードの普及と利活用を促進する	・税と社会保障の一体改革の一環により、スタートしたマイナンバー制度。安全でより身近な行政サービスの提供を目的としたマイナンバーカードの普及と利活用を住民にも周知し、年度末までに40%程度の普及率を目指す。	マイナンバーカード交付 864枚/年度 出張申請実績 4月1団体(6枚) 5月2団体(21枚) 6月1団体(14枚) 久野脇いきいきサロン15名 10月選挙期間中の時間外窓口開設(4日間・申請者88名) 川根高校出張申請 確定申告会場での申請受付(2/27・3/6)	・計画的な活動により、目標の普及率40%を達成することができた。 ・今後も、国の動向、県からの通知などを注視しながら、普及や利活用の周知を促進していく。
会計課	・電力使用の削減 ・CO2排出量の削減	・月曜日・水曜日・金曜日に定時退庁徹底 ・始業前、昼休みの照明消灯徹底 ・保存用ファイルの再利用	①ノ残業デー(100%達成) ②始業前昼休みの照明消灯(100%達成) ③ファイル再利用(100%達成)	①ノ残業デーについては、繁忙期等で達成できない時期もあったが、曜日に関係なく定時退庁の意識を持ち概ね達成できた。来年度も引き続き業務の効率化を図り、時間管理意識をさらに高めたい。 ②始業前昼休みの照明消灯については課員全員が意識し、幹事や委員が不在時にも取り組むことができた。来年度も引き続き取り組みたい。 ③毎月歳入・歳出伝票をつづるために約5冊のファイルを使用している。本年度は会計課だけで再利用するのではなく、他課にもファイルを再利用してもらおうよう、附属棟に張り紙にて周知した。来年度も引き続き取り組みたい。
議会事務局	議員の資源節約意識を啓発、継続する	・メール活用等による紙資源の節約。 ・夏季における軽装化、会議時間以外の会議室の消灯等による節電。	夏季軽装化、エアコン設定温度28℃	計画した内容は、おおむね実施できた。議員改選により新たに加わった議員も含め、全議員に資源節約の意識が定着していると感じる。会議での湯茶について、マイボトル持参が定着してきた。来年度以降も議員、事務局全員で引き続き資源節約に努めていきたい。

令和3年度 各課(局・施設)の取組実績及び評価

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
支所管理局	エコアクションへの取り組みの啓発	ゴミ減量化への啓発活動の定期的な実施と率先した減量活動の実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・再資源化についても、分別についての意識啓発を朝礼で行った(月1回)。 ・住民からの申請書類の見直しを行い、資源の減量や住民の利便向上につなげたもの(年間5件)。 	<p>コロナ対策による、エネルギーの使用量の減少は、今後施設の利用状況により元に戻ってくると考えられる。 ゴミや資源紙の排出、使用量の抑制は、個々の意識付けだけでは難しく、ペーパーレス化の技術研修などが必要になると考える</p>
観光商工課	エコツーリズムの推進	町内全域でのエコツーリズムの認識向上、自然環境・歴史・文化を観光の対象としながら環境保護と持続可能性を考慮するプログラムの構築を行う。	<p>普及啓発活動(年間) ガイド養成講座の開催 町内小・中・高での普及啓発出前講座の開催</p>	<p>今年度は学校向けの普及啓発講座として川根高校で座学・フィールドワークを用いた環境保護に関する学習や小学校・中学校でもフィールドワークで自然に触れる学習などを比較的多く実施することができた。 しかし、町民向けのフィールドワークは新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令により軒並み中止や延期となってしまった。 町民向けのフィールドワークは、今後もエコツーリズムを推進するにあたって重要な事業であるため、今後も継続して実施を図ってきたい。</p>
奥大井音戯の郷	音戯の郷施設環境エコ活動	施設利用者及び職員へのエコ活動啓発 グリーンカーテンの設置	<ul style="list-style-type: none"> ◆施設利用者及び職員への節電・節水啓発 ◆空調機使用時間短縮活動 【使用時間目安】9:30～16:00(繁忙日を除く) ◆ゴーヤのグリーンカーテン設置による空調機使用削減 	<p>コロナ前のエネルギー使用量とすると、今年度もエネルギー使用量は抑えられました。昨年と比べて、音戯の郷まで回遊する観光客は増え始めています。 令和4年4月末から8月にかけて大井川鐵道誘客イベント(きかんしゃトーマス)の開催が予定される中、来館者数がコロナ前まで戻ると、天候により空調機の出力を上げることとなり、エネルギー使用量は増加すると見込まれます。</p>

令和3年度 各課(局・施設)の取組実績及び評価

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
教育総務課	川根留学生及び川根高校に入学を希望している保護者と生徒に対し、高校の魅力と併せ本町の豊かな地域資源をPRする	本町の豊かな自然環境や森林資源等の情報発信を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・川根留学生寄宿施設に節電・節水を呼び掛け。施設内に掲示。 ・川根留学生に消灯時間等の厳守を呼び掛け ・高校生生徒による校内マップ作成の際に、校外外の自然環境の良さなどを学ぶ ・オンラインによる説明にて、中学生とその保護者に町の豊かな自然を中心に情報発信を行った。 ・1日体験入学のイベント内で、参加した中学生とその保護者に、町の豊かな自然を中心に情報発信を行った。 対面全体説明時に、中学生とその保護者に町の豊かな自然を中心に情報発信を行った。 ・地元に住む中・高校生に、地域の人達と共に、豊かな自然環境を守っていくことの重要性も併せて学んだ。 	<p>●年間総括 自然環境が良いことが当たり前になってしまい、気づかなくなってしまうためにも、再確認させる場面設定は必要と思う。 そこで今回は、誰かがやってくれるのではなく、自分が気づいてやる考えで行動できるよう、直接対話や、地域の重要な一員であることを感じてもらう内容でPRすることができ、生徒は、少しではあるが、環境を守る意識が高まったと感じた。</p> <p>●次年度への是正点 今回のように意識を高めるPRの実施と併せて、実際に生徒が気づき、行動に移してもらえるようなアピール方法も検討したい。</p>
学校給食共同調理場	学校給食の残食量の減量	給食の残食量の減量を目指すとともに残食の適正な処理を行う。	<p>主食残量 169kg おかず残量 420kg 食に関する指導 小中学校(6校)調理員給食訪問 2回</p>	各学校により残量に偏りはあるが、引き続き食の指導等を実施し、残量削減に努めたい。

令和3年度 各課(局・施設)の取組実績及び評価

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
社会教育課	環境教育の啓発	地域で取り組む生涯学習事業など「環境保護」をテーマとした学習機会の開催	<p>【地域で取り組む生涯学習事業】 各地域で実施中(全事業を終了し、実績報告書が提出された)19地区</p> <p>【ふるさと発見団】 6/13実施 参加児童数 14人 7/23実施 参加児童数 17人 11/14実施 参加児童 16人</p> <p>【放課後子供教室】 毎週水曜開催(10/20～) 延べ576人参加</p>	<p>各地区の生涯学習推進員が実施する「地域で取り組む生涯学習事業」や小学生を対象とした「ふるさと発見団」、焼津市小学生との「海の子山の子交流教室」で環境学習などを計画したが、新型コロナウイルス感染拡大により、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が発令され、事業が中止となり計画どおり実施できなかった。 次年度においても環境学習等を取り入れた計画を行っていきたい。</p>
文化会館	<p>①施設利用者数を維持し、電気使用量を前年度より減らす。 ②町民の環境意識の向上。</p>	<p>①文化会館事業の促進とTPOに合わせた照明・空調利用を心がけ、節電・省エネに努める。 ②環境教育目的のイベント開催。</p>	<p>年間電気使用量 97,820kwh 利用者数 17,455人</p> <p>関連イベント 南アルプス写真展、火の見櫓絵画展示、彩むすび書展示、ツツジ写真展、本川根小学校作品展、絵手紙展、弥生サイエンス、人権啓発ポスター、本川根中学校作品展、地域生涯学習発表</p>	<p>今年度は文化会館がワクチン接種会場となったことで昨年度よりも大幅に利用者数が増加したため電気利用料も増加した。 また、今年度は例年に比べ夏は暑く、冬は寒かったことで文化会館で最も電気を消費する空調機の利用が多かったことも電気使用量が増加した要因にもなった。 来年度も現時点では4月にワクチン接種会場になることが決定しており、4月以降にも接種会場として使用された場合や今年度のような天候状況だった場合は電気使用量は増加する可能性が高いと予想される。ただし、コロナウイルスのまん延状況によっては使用料が減少することが考えられる。 電気使用量については開館利用者が快適に利用できる範囲で省エネを行い、なるべく電気使用量を減少できるよう努力する。</p>
B&G海洋センター	エネルギーの有効活用による施設利用者への快適な利用環境の提供	施設で使用する電気や水道、灯油などのエネルギー使用の削減を図りながら、施設利用者への快適な利用環境を提供する。	利用者のいない間は、不要照明の消灯や水道ガスの適正な使用を徹底し、利用者にも協力を呼び掛け、節約に努めた	7月までは燃料費の使用量がカヌー事業の増により増加したが、コロナの影響により夏以降は施設利用者の減や教室の減もあり一部で減少した。営業期間中は節約に努めている。来年度、教室等が通常通り行えたときにも節約に努めるようにする

3 小中学校

令和3年度 町内小中学校の取組実績及び評価

校名	件名	活動内容	活動の成果・今後の展望
南部小学校	【上半期】 全校緑の少年団活動「緑のカーテンで夏を涼しく過ごそう」「運動場をきれいにしよう」	【上半期】 「緑のカーテンで夏を涼しく過ごそう」 ○アサガオ、ゴーヤを育て緑のカーテンを作ることを通して、植物を育てることで人も過ごしやすい生活になったり豊かになったりすることを実感する。 令和3年5月～令和3年9月	今年度も4年生が緑の少年団活動を引き継いでいる。4年生は、理科の学習としてゴーヤを育てるが、アサガオとともに緑のカーテンを育て植物の生長の速さや開花、結実などに強い興味、関心をもつことができた。花が咲くことや実が実ることが、人の心にゆとりや潤いをもたらすことを感じていた。また植物に寄ってくる虫にも高い関心をもち、何の幼虫なのか調べる子もいた。 花壇の世話として雑草取りや水かけを毎日行い、生命ある植物を大切にしている気持ちも育てることができた。 秋になり落ち葉も増えてきて子どもから「落ち葉を集めて片付けよう」という声や活動が自発的に現れた。自然を大切にすることや自分たちの手で学校をきれいにしようとする心が育ってきていると感じた。継続すること、全校にその姿を見せることで、活動や精神を全校に広げることができれば、と考えている。
	【下半期】 全校緑の少年団活動「花いっぱい の学校にしよう」	【下半期】 「花いっぱいの学校にしよう」 ○チューリップの球根やパンジーの花苗を植えて育てる。 (1) 11月 チューリップの球根植え(4年 緑の少年団) (2) 2月 パンジーの花苗植え(4年) 令和3年10月～令和4年3月	チューリップの球根をていねいに植えることができた。その後、しばらくは何の変化も見られないが、暖かくなって顔を出した芽を見つけて「植えてよかった」と喜ぶ笑顔、姿が多く見られた。また、パンジーなどを育て卒業式や入学式などを飾るために役立てられることで、自分たちの学校生活の中での少年団活動の意味や緑や花のあふれる生活の豊かさを一層実感することにつながった。今後も、引き続き子供たちが自分たちの学校生活を明るく豊かにするために、身の回りの環境に目を向け関わっていきけるよう、時間や場を工夫していきたい。

令和3年度 町内小中学校の取組実績及び評価

校名	件名	活動内容	活動の成果・今後の展望
中央小学校	【上半期】 総合的な学習での環境教育	<p>【上半期】 (ねらい) 中津川にいる水生生物を調べることを通して、中津川の水がきれいかどうかを考えたり、身近な川の環境に興味を持ったりする。</p> <p>(活動内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中津川の川底を探り、水生生物を捕まえる。 ・捕まえた水生生物の種類と数を調べ、川の水質について考察する。 ・中津川の水質についてわかったことをもとにして、大井川と人との関わりや、川根本町の自然環境を守るために、今後どんなことができるのかを考える。 <p>令和3年7月15日(木)</p>	<p>鈴木正文さんを講師に招き、中津川の水質調査を行った。水質調査では、カゲロウやヘビトンボ、カワゲラなどの幼虫を捕まえることができた。ふだん、何気なく見ている川の中に、これだけたくさんの生物が生きていることを知り、子どもたちは驚いていた。また、捕まえた水生生物の種類や数から、中津川の水質がとてもきれいだということがわかった。また、中津川周辺に落ちているごみにも着目し、今後も中津川の水質をきれいに保っていきたいという思いを持つことができた。</p> <p>今回、中津川の水質調査を行ったことをきっかけに、大井川の水質や人々との関わり、川以外の自然環境にも目を向けて調査を行い、川根本町の自然環境を守っていくためにどんなことができるのかを、子どもたちと一緒に考えていきたい。</p>
	【下半期】 社会「健康なくらしとまちづくり」	<p>【下半期】 (ねらい) 社会「ごみはどこへ」の学習において、ゴミ処理に関する仕事に携わる人から話を聞くことで、自分たちの町のごみ処理について関心を持ったり、理解を深めたりする。</p> <p>(活動内容)</p> <p>○川根本町役場くらし環境課職員から「川根本町のごみ事業」について話を聞いた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ集積所の数 ・ゴミの分別の仕方や分別されたごみの運搬先 ・ごみ収集の様子の見学 など 	<p>川根本町役場くらし環境課職員から「ごみを減らす工夫」の話を聞いた子供たちは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川根本町でもごみがたくさん出ていること ・ゴミを減らすために、無駄遣いはしないこと <p>などを学ぶことが出来た。</p> <p>今回の学習は、10月に行った田代環境プラザ(ゴミ処理場)の見学に繋がった。この学習を機に、自分にできるごみ対策について考えていきたい。</p>

令和3年度 町内小中学校の取組実績及び評価

校名	件名	活動内容	活動の成果・今後の展望
中川根第一小学校	【上半期】 4年生 理科 「植物の生長と変化」	【上半期】 令和3年5月中旬～9月	ツルレイシの成長を観察するため、2階教室ベランダから1階へ網を垂らし、そこにツルレイシのツルを這わせた。 網をつたわるツルレイシの葉が1階(保健室)部分に木陰をつくり、温度上昇を緩和することを体感した。
	【下半期】 ① パーマカルチャーの考え方にもとづく造園作業 ② 身の回りのゴミ、水について考えよう(4年 社会科) ③ 工業生産と公害、環境保全の取組を学ぼう(5年 社会科) ④ 地球環境(6年理科)	【下半期】 ① 循環型のライフスタイルや日頃は見落としがちな廃棄物利用など新たな視点で生活を見直す方法について学び、造園作業を行ってその具体やその後の変化などを日常的に観察する。 ② 暮らしから生じるゴミの処理過程を調べたり見学したりする。その上で、ゴミ削減の視点からできることを構想し、アクションしてみる。水道水については、水源地の環境保全や継続的な管理を学び、家庭でもできる取組を構想する。 ③ 工業生産における環境保全を学び、徳山地区にある工場を見学することを通し、身近な場所でも様々な取組があることを知る。 ④ 小学校理科の総合的な単元として環境について、大気や水などを中心に関連性や連続性を学ぶ。 ① 6月～2月 ② 7月～10月 ③ 12月～2月 ④ 2月	① 多くの校外協力者の参加もあり、児童は、多くの方が環境に目を向けて生活し始めていることを実感できた。また、意外な物の利用もあり、環境保全のための取組は多岐にわたることを学んだ。造園活動は、新年度も継続していくので、変化を目の当たりにしたり追加の活動に取り組んだりすることで環境への関心が高まっていくと期待している。 ② 小学生でもできる「ゴミ削減」「水資源の有効利用」があることに気づき、学校の仲間や家人に働きかける事もできた。同時に、何気なく使っている水、処理してしまっていた資源などがあることに気づき、その保全のために様々な人が努力されている事実を知ったことが意識高揚に役立った。 ③ 公害により苦しむ人が今でもいることや企業等が営利優先では無くなってきていることを知り、環境問題が切迫したものであるという認識を得た。身近な工場見学を通してその具体を知り、どこでも行われているものとの実感をもつことができた。 ④ 環境問題が取り上げられることが多い現状やそれに対する対策も講じられていることを知ってはいたが、地球上で大気や水がつながっていることを知り、日本、町、自分だけが行っていても効果が低いことを理解した。この中で、自分自身も地球の一員であるとの意識をもつことができた。

令和3年度 町内小中学校の取組実績及び評価

校名	件名	活動内容	活動の成果・今後の展望
本川根小学校	【上半期】 やまびこ自然教室での「アマゴの放流」	【上半期】 学区を流れる大井川に親しみをもたせるとともに、川の環境保全や命の大切さを学ぶ。 (1) 漁協組合の方の話 (2) アマゴの稚魚の観察、放流 令和3年6月3日	アマゴの放流活動は、今年で6年目になる。昨年度同様、千頭温泉前河原で、今年度は4年生が中心となり、活動を行った。「大きくなってね。」「元気に泳いでね。」と、声をかけながら、大井川に放たれたアマゴを温かな目で見つめる児童の姿が多く見られた。 児童はアマゴの放流を通して、地域の自然の良さ、生き物の命の大切さを実感することができた。 本川根小の伝統行事として、今後もこの活動を続けていきたい。
	【下半期】 学校を彩る花を植えよう	【下半期】 ・6年生は新しく入学する新入生のために、花壇にチューリップの球根を植えた。 ・1～5年生は卒業生への感謝の気持ちを込めて、各学年ごと、ビオラとパンジーの苗をプランターに植えた。 令和4年2月7日(月)～令和4年2月10日(木)	① 一人一人が、非常に手際よく、優しい気持ちで一生涯懸命取り組むことができた。 ② 児童は意欲的かつ協力的に活動していた。その後、プランターは自分たちの教室のベランダに移動させ、毎日当番が水やりを行ったり、枯れてしまった花を積極的に摘んだり丁寧な世話をする姿が見られた。 ③ 自分の植え付けた苗に対して愛着が湧いてきている児童の姿も見受けられ、パンジーやビオラの成長を実感していた。 今後も植物を世話するということを通して、生き物への優しさを培っていききたい。

令和3年度 町内小中学校の取組実績及び評価

校名	件名	活動内容	活動の成果・今後の展望
本川根中学校	<p>【上半期】 地域の自然や産業などを見つめ、川根本町の魅力や課題を見つけよう。</p>	<p>【上半期】 まるごと体験(地域めぐりや防災学習、ご当地カレー作りなどを行う本校の学校行事)を通して、フィールドワークや川根本町の防災学習などをし、川根本町の魅力や課題を見つけ、今後の総合的な学習の問いをつくることを目的とする。 (1)まるごと体験1日目 ア川根本町の防災学習 イ本川根ご当地カレーの企画 (2)まるごと体験2日目 ア大井川上流井川地区でのフィールドワーク (3)まるごと体験3日目 ア本川根ご当地カレー作り イ活動のまとめ (4)「総合的な学習の時間」校外学習 (5)「緑のカーテン(あさがお)」の活動 令和3年4月25日(日)～27日(火)</p>	<p>地域めぐりや防災学習を通して地域の魅力や課題を知る活動は、普段の学校生活では簡単に学ぶことができない。しかし、上記のような活動を行うことで、地域の自然や防災などを見つめる機会を持ち、川根本町の文化や防災、課題をテーマとして調べようとする姿を見ることができた。また、2日目の井川地区でのフィールドワークを行うことで、井川小中学校との交流にもつながり、川根本町について井川地区からの目線で考えようとする姿もあった。 今後は、上記の活動から出てきた問いを元にして、川根本町の文化や防災、課題をテーマとする課題学習を進めていく。そして、生徒たちが住む町の自然や産業を見つめ、魅力や課題を再発見し、今後「自分たちがどのように故郷と関わっていくか。」を考えていくことを期待したい。</p>
	<p>【下半期】 「心がきれい」「学校がきれい」を目指して～清掃活動を通して～</p>	<p>【下半期】 清掃活動や資源回収、花の球根の植栽、高齢化疑似体験等を通して、環境教育の大切さを学ぶことを目的とする。 (1)環境保全・環境教育 ①資源回収 ②球根の植栽(環境委員会) ③全校草取り (2)福祉教育 高齢者疑似体験(1年生 家庭科) 令和3年10月11日(月)～令和4年3月11日(金)</p>	<p>本校生徒が環境教育の重要性について学ぶことができるように、例年行っているとおりに下半期では以下の活動を行った。 3年生を送る会や卒業式、来年度の入学式のために、環境委員会が主体となってパンジーの球根の植栽や水やり等を行った。また、全校清掃の一環として、清掃の時間に全校草取りを行った。これらの活動を通して、生徒が主体となってきれいな学校づくりに貢献していく経験を積み重ねることができた。 1年生の家庭科の授業で、高齢者疑似体験学習を行った。町の社会福祉協議会の方を講師としてお招きし、講話をいただいたり、歩行体験を行った。この授業を通して、高齢者が抱える苦勞を理解し、高齢者の多い川根本町の福祉事情や福祉教育の大切さを学ぶことができた。 来年度以降においても、本校生徒の育成のために様々な方法や手立てを講じ、環境教育を促進させていきたい。</p>

令和3年度 町内小中学校の取組実績及び評価

校名	件名	活動内容	活動の成果・今後の展望
中川根中学校	【上半期】 『あすなるDAY』『キャップ投げたいかい？』『節水・節電を求めるステッカー』	【上半期】 ・毎週水曜日を「あすなるDAY」とし、福祉委員会でアルミ缶、牛乳パック、エコキャップの回収を行った。前日の全校生徒へ周知、当日朝の回収の呼びかけなどを、福祉委員を中心に行った。回収により得られたお金で、町内の福祉施設に必要なものを寄付するつもりである。 ・福祉委員会が行った特別活動「キャップ投げたいかい？」では、ペットボトルキャップを用いたレクレーションを企画し、あすなるDAYの意義について説明し、参加率の向上を図った。 ・前年度に設置した節電・節水を意識するステッカーは、剥がれていないかなどの確認を行い、引き続き水道の蛇口や照明のスイッチ付近に掲示した。 4月から10月まで、毎週水曜日を中心とする毎日	○参加率が低迷していた「あすなるDAY」では、どうすれば参加率が上がるのかを話し合った。そして、前日の呼びかけを再度徹底することと、当日朝には福祉委員が昇降口に立って呼びかけを行うようにした。その結果、意欲的に持ってくる生徒も増え、参加率を倍以上にすることが出来た。 ○「キャップ投げたいかい？」では、生徒たちが楽しみながら福祉活動に関心を持つきっかけを作ることが出来た。あすなるDAYの参加率が上がった要因の1つにもなっていると考える。 ○節電・節水ステッカーが目につく場所に貼ってあることで、節電や節水を意識しようとする姿が見られた。今後も掲示を続けていきたい。
	【下半期】 『あすなるDAY』『節水・節電を求めるステッカー』	【下半期】 ・毎週水曜日を「あすなるDAY」とし、福祉委員会でアルミ缶、牛乳パック、エコキャップの回収を行った。前日の全校生徒へ周知、当日朝の回収の呼びかけなどを、福祉委員を中心に行った。回収により得られたお金で、町内の福祉施設に車イス等の寄付を行う予定である。 ・前年度に設置した節電・節水を意識するステッカーは、剥がれていないかなどの確認を行い、引き続き水道の蛇口や照明のスイッチ付近に掲示した。	○「あすなるDAY」では、多くの生徒に参加してもらうために、前日には昼の放送で呼びかけや先週の結果報告を行い、当日朝には福祉委員が昇降口に立って呼びかけを行った。その結果、生徒の「あすなるDAY」の意識を高めることができ、参加率向上へと繋がった。車イス等の寄付は今年度行わなかったため、来年度以降実施していきたい。 ○節電・節水ステッカーが目につく場所に貼ってあることで、節電や節水を意識しようとする姿が見られた。今後も掲示を続けていきたい。

(5) 目標年度に向けた取組

○温室効果ガス総排出量の削減目標

(kg-CO2)

(基準値) H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	(目標年度) R5年度	削減率 (%)	削減量
1,877,256	1,689,530	1,595,667	1,501,804	1,407,942	25	469,314
	10%削減	15%削減	20%削減	25%削減		

○ゴミ排出量の削減目標

(kg)

(基準値) H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	(目標年度) R5年度	削減率 (%)	削減量
10,338	10,049	9,976	9,903	9,831	4.9	507
	2.8%削減	3.5%削減	4.2%削減	4.9%削減		

○紙使用量の削減目標

(枚)

(基準値) H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	(目標年度) R5年度	削減率 (%)	削減量
1,651,350	1,403,648	1,337,593	1,271,539	1,205,485	27	445,865
	15%削減	19%削減	23%削減	27%削減		

○総排水量の削減目標

(m)

(基準値) H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	(目標年度) R5年度	削減率 (%)	削減量
37,810	37,205	37,053	36,902	36,751	2.8	1,059
	1.6%削減	2.0%削減	2.4%削減	2.8%削減		

○グリーン購入率目標

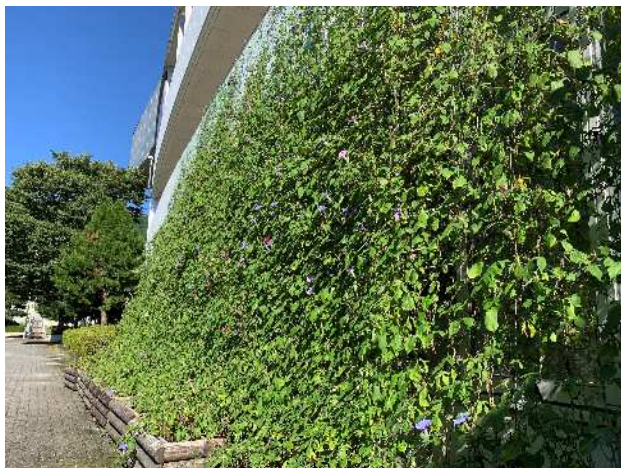
(%)

(基準値) H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	(目標年度) R5年度	購入率 (%)	向上率
72	79	86	93	100	100	28
	7%向上	14%向上	21%向上	28%向上		

4 令和3年度の活動の紹介

(1) 緑のカーテン実施・啓発

夏季の暑さ対策と電力使用量の削減を目的として、庁舎に緑のカーテンを設置して 17 年目になります。今年も朝顔で高さ 5m、幅 10m の緑のカーテンを作りました。また、この緑のカーテン普及促進のため、設置希望のあった地区と学校に土やプランター、ネット、種の配付も行いました。



(2) 川根本町の自然について学ぶ（ふるさと発見団）

子供たちが我が町を知り理解を深める機会として例年実施するふるさと発見団を本年も 3 回実施しました。

第 2 回、3 回には川根高校生もボランティアとして参加し、高校生と小学生の交流の場にもなりました。

第 1 回「昔を見つけよう！歴史探索ツアー」

内容：智満寺、浅間神社、奥泉探検 14 名参加

第 2 回「みんなで楽しくアウトドア」

内容：飯ごう炊飯、魚のつかみどり、石にお絵かき、竹水鉄砲づくり
26 名参加（うち川校生 9 名）

第 3 回「町の産業にふれよう～農業体験～」

内容：ゆずの収穫、ゆず出荷作業見学、自然薯収穫体験
21 名参加（うち川校生 5 名）



(3) 地域緑化支援事業の実施

9月と11月に町内の花の会を対象として、地域緑化を促進するため球根や種などの資材を配布しました。

町内で活動している花の会より配付希望を受け、秋植えの球根や種、培養土、肥料などを、計17団体に配付しました。

春には町内各地で色とりどりのきれいな花が咲き、見る人の目を楽しませました。



(4) 大井川を学ぶ視察会

大井川の河川環境と水利用の現状を知ってもらうための視察会を実施しました。

今年度は、大井川の新たな水問題として取り上げられるリニア中央新幹線の導水路トンネル出口予定地の榎島付近の現状を視察し、事業への理解を深めました。

視察域	開催日	参加者数
《源流域》 井川ダム～榎島付近（静岡市）	令和3年11月12日	19名



(5) 大井川を知る総合学習「大井川出前講座」

子どもたちに大井川の現状とその環境について広く知ってもらうことを目的とした大井川出前講座を、流域の小学校 20 校で開催しました。

児童たちは、大井川の歴史をたどり、変化する大井川の役割と現状を学びました。

開催校	開催日	対象者
吉田町立 自彊小学校	令和3年9月27日	6年生 76人
掛川市立 大淵小学校	令和3年10月11日	4年生 26人
川根本町立 中央小学校	令和2年10月12日	4年生 14人
菊川市立 堀之内小学校	令和3年10月13日	4年生 59人
掛川市立 西山口小学校	令和3年10月19日	4年生 92人
掛川市立 佐東小学校	令和3年10月20日	4年生 21人
掛川市立 東山口小学校	令和3年10月21日	4年生 30人
島田市立 大津小学校	令和3年10月21日	5年生 49人
島田市立 川根小学校	令和3年10月26日	6年生 18人
		4年生 28人
藤枝市立 稲葉小学校	令和3年11月1日	4年生 21人
川根本町立 本川根小学校	令和3年11月2日	4年生 9人
島田市立 五和小学校	令和3年11月4日	5年生 70人
藤枝市立 広幡小学校	令和3年11月11日	4年生 83人
掛川市立 上内田小学校	令和3年11月16日	4年生 22人
菊川市立 小笠北小学校	令和3年11月18日	4年生 69人
島田市立 神座小学校	令和3年11月30日	5年生 10人
計	17回	697人



5 町が実施する町民向け補助事業

川根本町では、環境負荷の少ないエネルギーの利用、資源有効利用、地球温暖化防止、町民との協働による自然に癒されるふるさとづくりの推進等を目的に、以下の補助金制度を実施しています。

(1) 川根本町クリーンエネルギー機器導入促進事業費補助金

太陽光発電システム等を設置する場合の購入費用及び設置費用を助成します。

【令和3年度の実績】

区 分	件数	補助金交付額
太陽光発電システム	6	547 千円
太陽熱温水器	7	350 千円
エコキュート	10	500 千円
潜熱回収型	3	90 千円
リチウムイオン蓄電池	12	1,200 千円
計	38	2,687 千円

(2) 川根本町生ごみ減量促進事業費補助金

生ごみ処理機等の購入費用を助成します。

【令和3年度の実績】

区 分	件数	補助金交付額
乾燥式	5	175 千円
容器式	4	16 千円
バイオ式	1	35 千円
計	10	226 千円

(3) 川根本町合併処理浄化槽設置整備事業費補助金

合併処理浄化槽の設置費用を助成します。

【令和3年度の実績】

区 分	件数	補助金交付額
合併処理浄化槽	13	5,027 千円

(4) 川根本町古紙等資源集団回収奨励金

古紙類、ビン類、缶類の回収を行った団体（自治会、小中学校、子供会、PTA等）に対し、奨励金を交付します。

【令和3年度の実績】

交付件数	参加団体数	回収量	奨励金交付額
24	8	104,662 kg	524 千円

(5) 川根本町防犯灯整備事業費補助金

防犯灯整備事業を実施する区自治会に対し、補助金を交付します。

【令和3年度の実績】

区 分	件数	補助金交付額
新設（支柱新設）	1 基	249.1 千円
新設（電柱共架）	0 基	
交換	16 基	

(6) 川根本町少量危険物貯蔵施設防油堤整備事業費補助金

少量危険物貯蔵施設防油堤を設置する方に対し、補助金を交付します。

【令和3年度の実績】

区 分	件数	補助金交付額
防油堤整備	1	100 千円

6 環境関連法規等の順守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

令和3年度において、環境関連法規の遵守状況を確認した結果、法令違反や事故、異常事態の発生は報告されておられません。

また、過去3年間にわたって違反・訴訟もありません。

遵守状況チェック日 令和4年2月28日

○関係法令

法律名	関係業務	関係課	遵守状況
環境基本法	・環境関連施策全般	全庁	○
循環型社会形成推進法	・循環型社会の構築	全庁	○
地球温暖化対策の推進に関する法律	・町施設における温暖化対策 ・住民、事業所への働きかけ	全庁	○
国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）	・町施設における物品購入、使用時の環境配慮	総務課 全課	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・廃棄物関連施策の実施 ・事業から排出される廃棄物の処理	全庁	○
資源の有効な利用の促進に関する法律（リサイクル法）	・庁舎におけるごみの分別、再利用等 ・分別収集の啓発	くらし環境課 総務課 他	○
容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進に関する法律（容器包装リサイクル法）	・廃棄物関連施策の実施 ・事業から排出される廃棄物の処理	全庁	○
特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）	・特定家電製品の廃棄、リサイクル券の購入	総務課 特定家電使用課	○
食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律（食品リサイクル法）	・食物残渣等のリサイクル	給食センター	○
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）	・公共事業における建設廃棄物の再資源化と再利用の促進 ・地域における資材の再資源化の促進	建設課 関係課	○
使用済自動車の再資源化等に関する法律（自動車リサイクル法）	・公用車の廃車時における環境配慮 ・購入・更新・車検時のリサイクル券の購入	関係課	○
水質汚濁防止法	・庁舎・施設からの排水の基準遵守	総務課 各施設	○
大気汚染防止法	・ボイラ等のばい煙発生装置の使用 ・ボイラ及び冷温水発生機の使用	海洋センター	○

法律名	関係業務	関係課	遵守状況
騒音規制法	・公共事業における騒音への配慮	建設課 関係課	○
振動規制法	・公共事業における振動への配慮	建設課 関係課	○
悪臭防止法	・地域における悪臭の防止	くらし環境課	○
エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)	・エネルギー使用量の把握 ・省エネの推進	総務課 くらし環境課 全庁	○
浄化槽法	・適正な浄化槽の管理	総務課 関係施設	○
消防法	・石油製品の大量貯蔵	海洋センター	○
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理に関する特別措置法	・PCBの適正な管理及び処理	総務課 教育総務課	○
フロン排出抑制法	・エアコン、冷凍冷蔵庫の定期点検の実施	総務課 関係施設	○

7 代表者による評価と見直しの結果

本町でのエコアクションの取り組みも、平成20年度以来15年目となりました。地域をはじめ、地球環境への負荷を極力減らし、持続可能な環境保全を目標として取り組みを続け、職員の中では最早当然の取り組みとして認知されてきております。

本町は南アルプスユネスコエコパークの緩衝地域として、後世に残すべき素晴らしい景観と、文化的な生活の営みを両立させる地域として位置づけられ、計画では町が目指す景観の姿を「人の営みにより育む、自然と調和した魅力と活力のある景観」としています。

目標の実現には、環境への配慮も益々重要となります。政府から「2050カーボンニュートラル」も掲げられ、今後、温室効果ガス排出削減についてはますますその取組が加速していくはずです。美しく広大な森林を資産として有する我が町が率先して取り組み、我が町から広く発信し、世界的なムーブメントに繋がられる重要な役割を担うものだと思っております。

令和3年度は基準年度から5年の中間年度を経て、これまでの5年間を検証し、更なる取組を始める重要な年度でありました。年々上がる目標に対し、目標達成は困難を極めてまいりますが、歩みを止めることなく『水と森の番人』としての使命を果たしてまいる所存です。

本町の取り組みが、日本国内にとどまらず、世界に誇れる姿となるよう、今後も地域の人々の暮らしと産業及び経済を支え、自然を守る番人として、町の財産でもある豊かな自然を守りつつ活かしながら、“自然と共生する豊かなまち 川根本町”を実現できるよう、今後もまちづくりを進めてまいります。

令和4年 5月31日

川根本町長 園田 靖邦